

第3次米原市総合計画

(案)

令和9年度(2027年度)～令和19年度(2037年度)

あな た が 笑 い
わ た し も 笑 う
幸 せ が 生 ま れ る ま ち

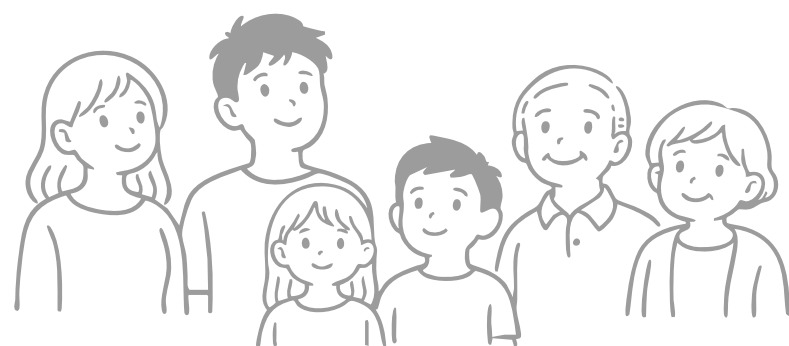
し ず く を 恵 み に、
未 来 を 楽 し む 米 原 び と

米 原 市

目 次

第1章	計画策定の背景、現状と課題	
1.	総合計画とは	1
2.	総合計画の策定方針	2
3.	市の現状	4
4.	ブランドコンセプト	8
5.	市民の意見	10
6.	今後のまちづくりの主な課題	14
第2章	基本構想	
1.	基本理念	17
2.	将来像	18
3.	「将来像を実現するために大切にしたい姿勢 （分野ごとの政策）」について	20
第3章	基本計画（総論）	
1.	基本計画の考え方	35
2.	計画の体系図	36
3.	SDGsの推進	38
第4章	基本計画	

第1章 計画策定の背景、現状と課題



1. 総合計画とは

総合計画は、どのようなまちをつくるのか、そのために何をするのかを示す未来の羅針盤です。

本市では、平成 19 年 6 月にまちの憲法である米原市自治基本条例（平成 18 年米原市条例第 43 号）の理念に基づき、第 1 次米原市総合計画を策定しました。その後、平成 28 年 9 月には、第 2 次米原市総合計画を策定し、これからの未来にふさわしい米原市の創造に向けた取組を進めてきました。

人口減少の加速化、社会保障費の増大、自然災害の激甚化など、厳しさを増す社会情勢の中、これまで取り組んできた様々な施策による成果等を礎とした更なる政策展開が必要です。そのため、中長期的な展望に立ちつつ、社会情勢の変化に対応し、市民等との協働によるまちづくりを進めるための指針として、第 3 次米原市総合計画を策定しました。

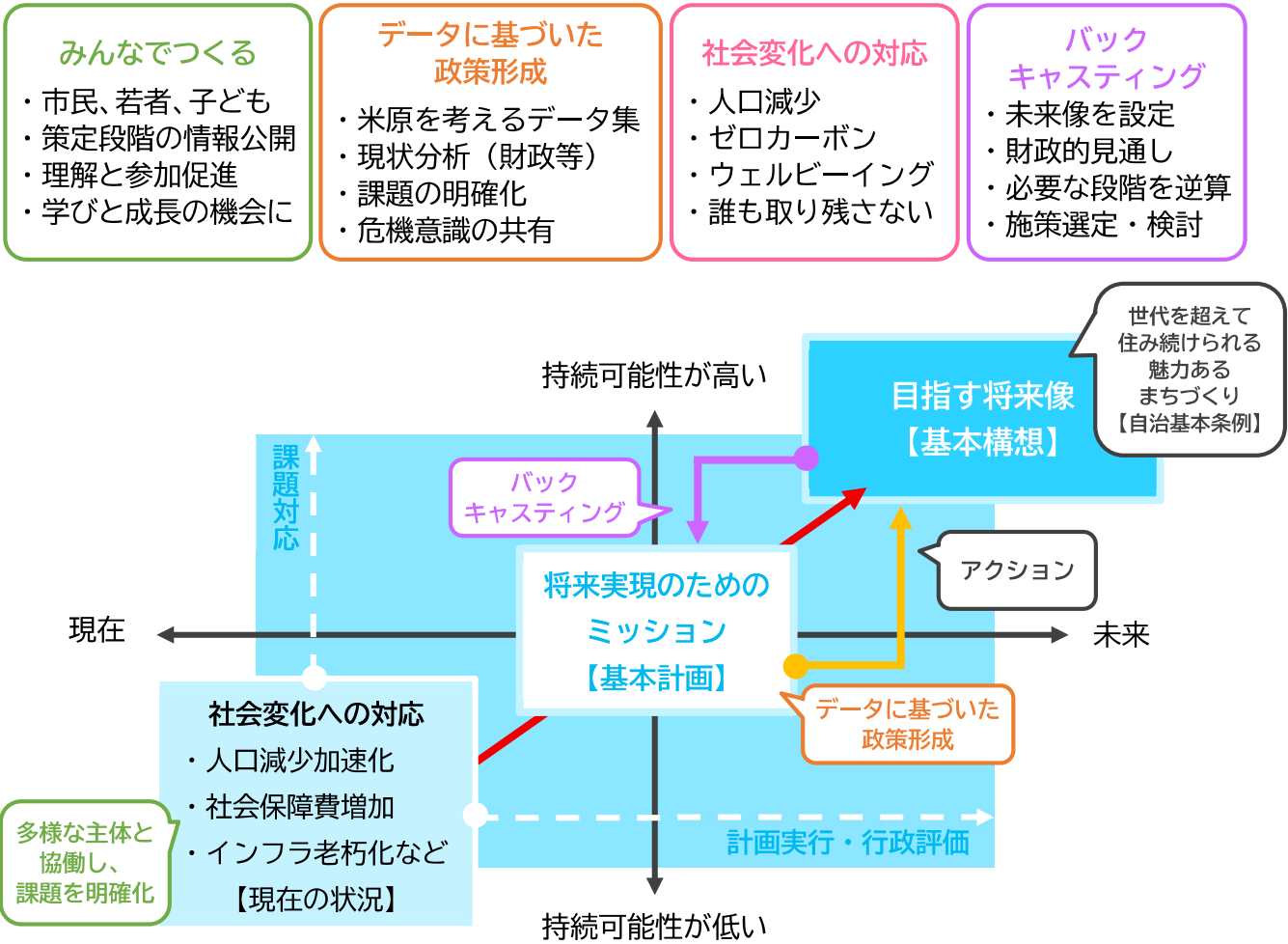
■総合計画と総合戦略

令和 9 年度を始期とする新たな第 3 次米原市総合計画は、従来の総合計画とまち・ひと・しごと創生総合戦略を一体化し、市民、事業者、行政が連携して、この厳しい状況に戦略的に立ち向かい、持続可能な地域社会を構築するための行財政経営の方向性を示す羅針盤となることを目指します。

2. 総合計画の策定方針

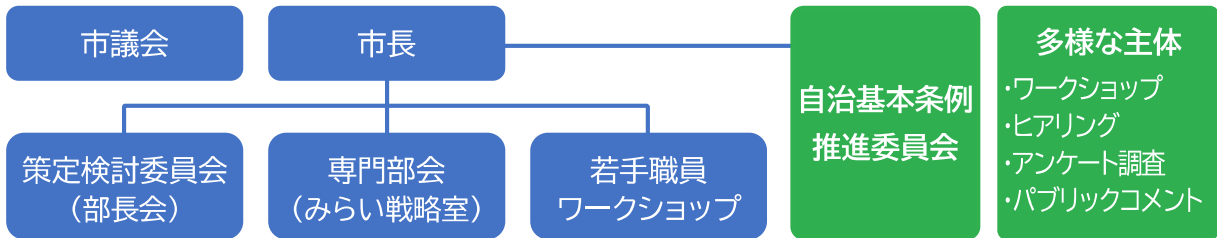
■策定のポイント

第3次米原市総合計画は、自治基本条例の理念を踏まえつつ、「目指す将来像」を明らかにし、以下の4つのポイントのもとで策定しました。



■策定の体制

第3次米原市総合計画は、庁内での検討に加え、ワークショップやアンケートなどにより、多様な主体が参画しながら策定しました。



■総合計画の体系

本市においては、自治基本条例を理念として掲げ、将来像や重点目標などの「ビジョン」となる『基本構想』、重点政策や分野別方向性の「ミッション」となる『基本計画』によって構成します。



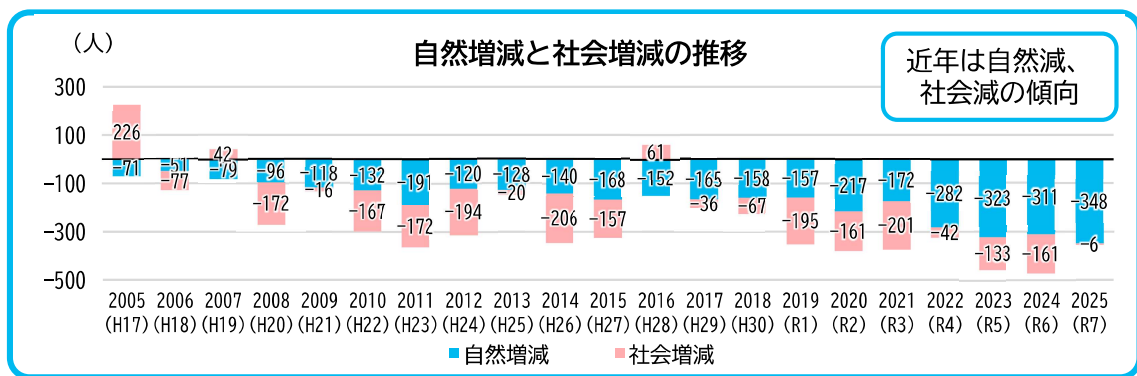
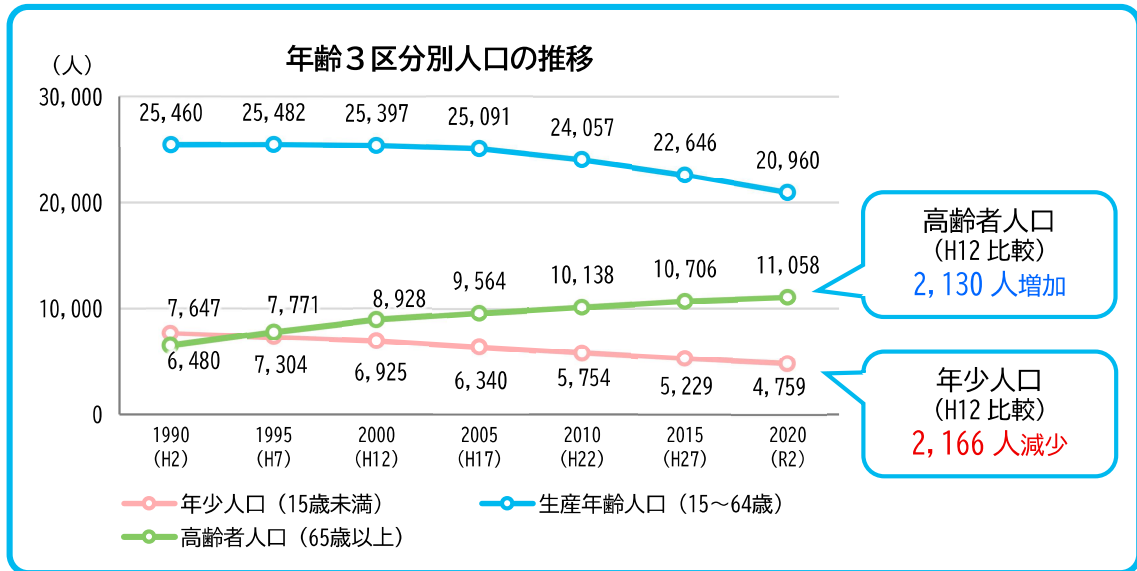
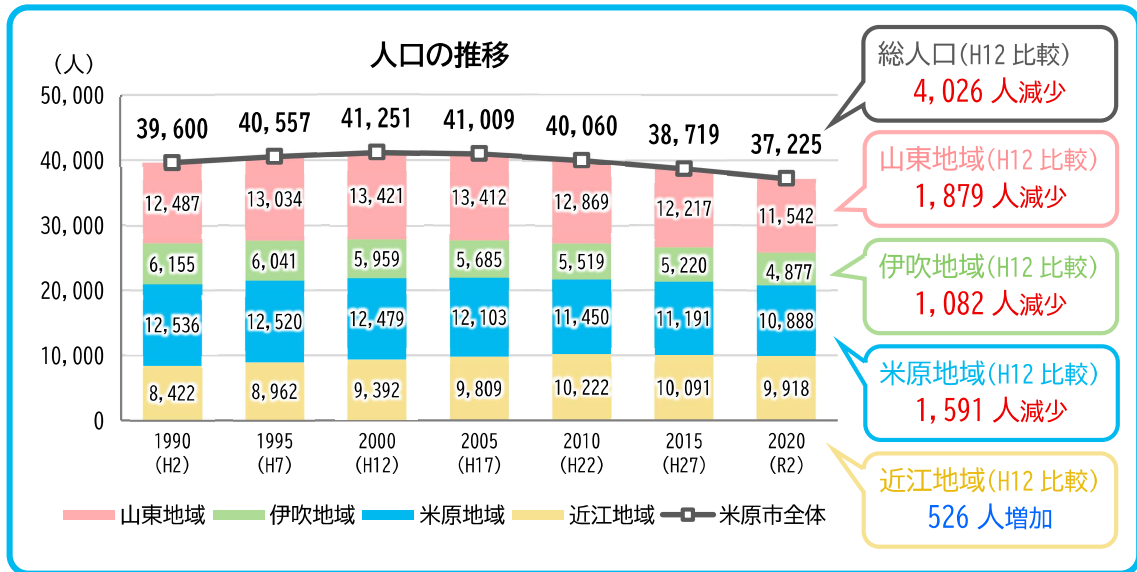
■計画期間

基本構想は令和9年度から令和19年度までの11年間を計画期間とし、前期基本計画は令和9年度を初年度とする3年間、中期基本計画は令和12年度を初年度とする4年間、後期基本計画は令和16年度を初年度とする4年間を計画期間とします。

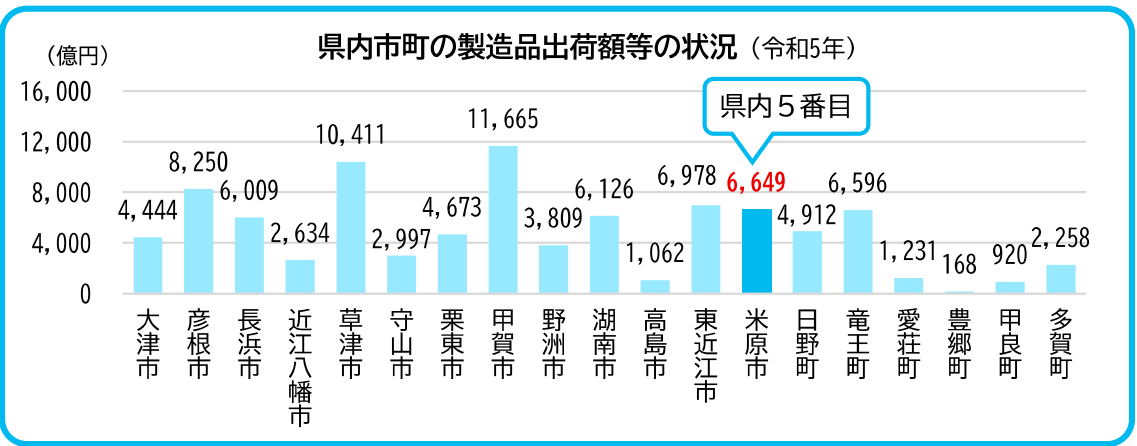
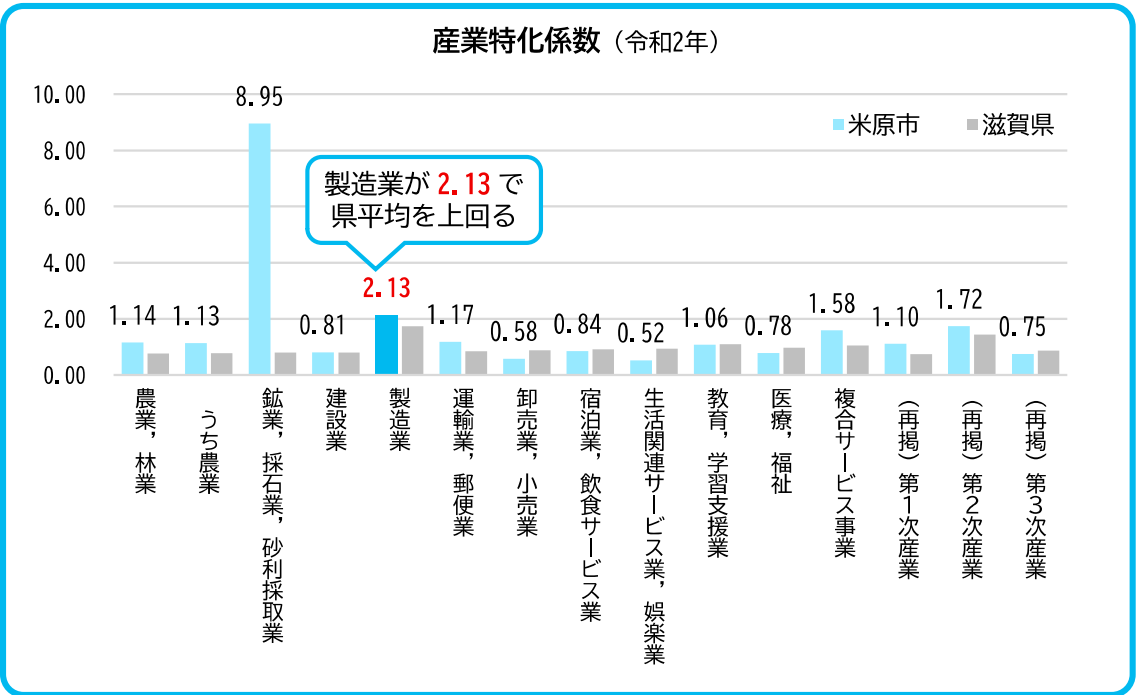
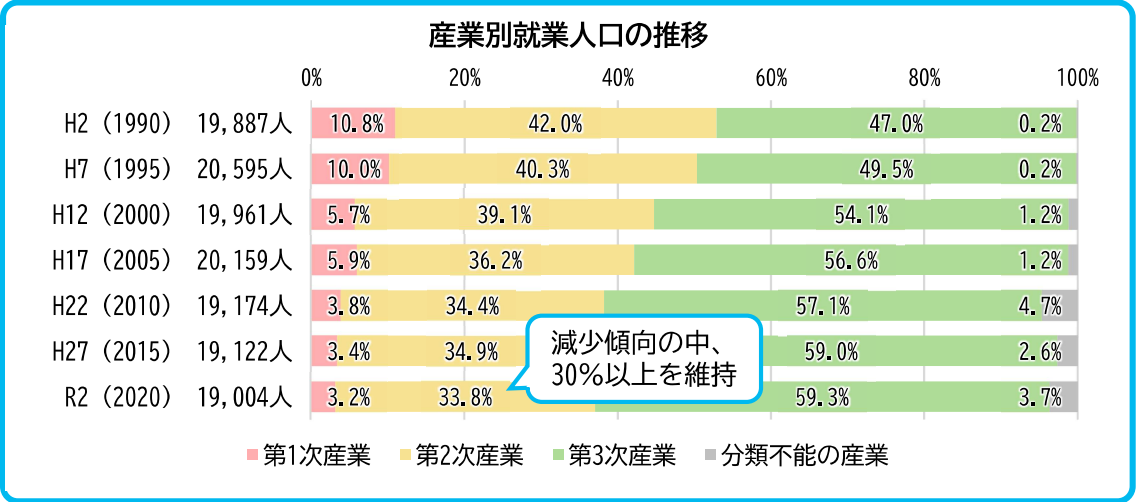
	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	2029 (R11)	2030 (R12)	2031 (R13)	2032 (R14)	2033 (R15)	2034 (R16)	2035 (R17)	2036 (R18)	2037 (R19)		
	第 2 次計画期間			第 3 次計画期間(令和 9 年度～19 年度:11 年間)												
基本構想																
基本計画																
市民意識調査		★		★		★		★		★		★		★		
市長任期																

3.市の現状

人口

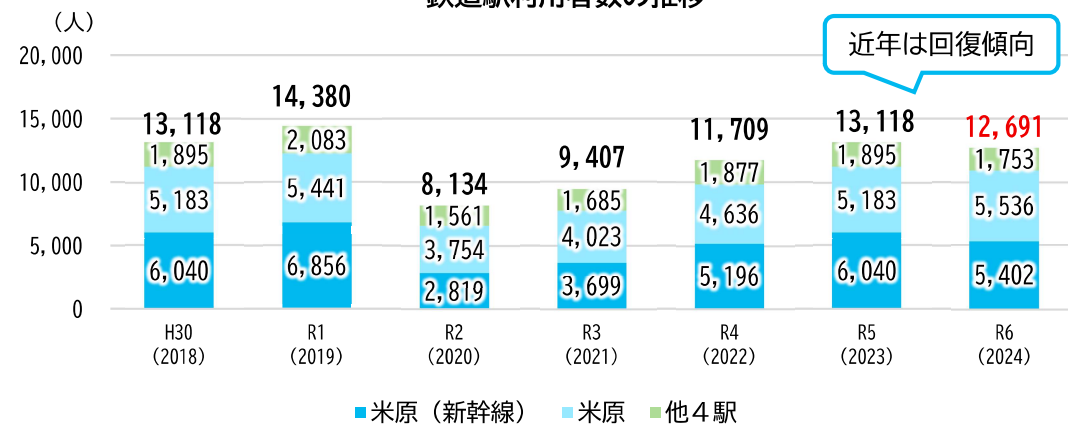


産業

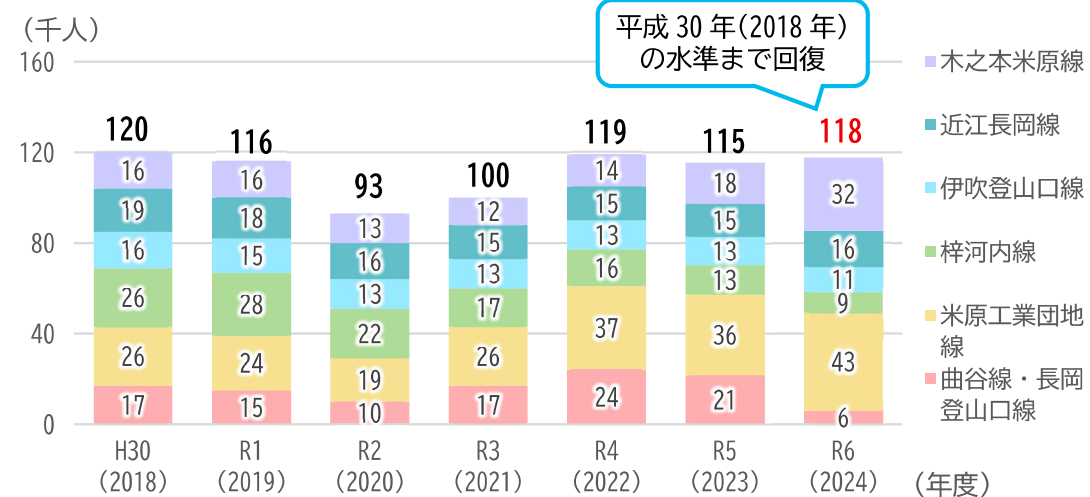


交通

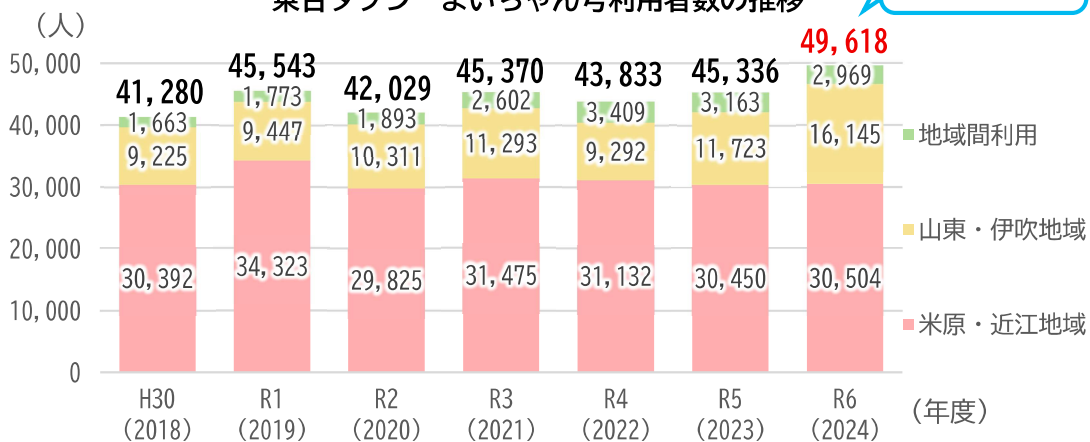
鉄道駅利用者数の推移



路線バスの利用者数の推移

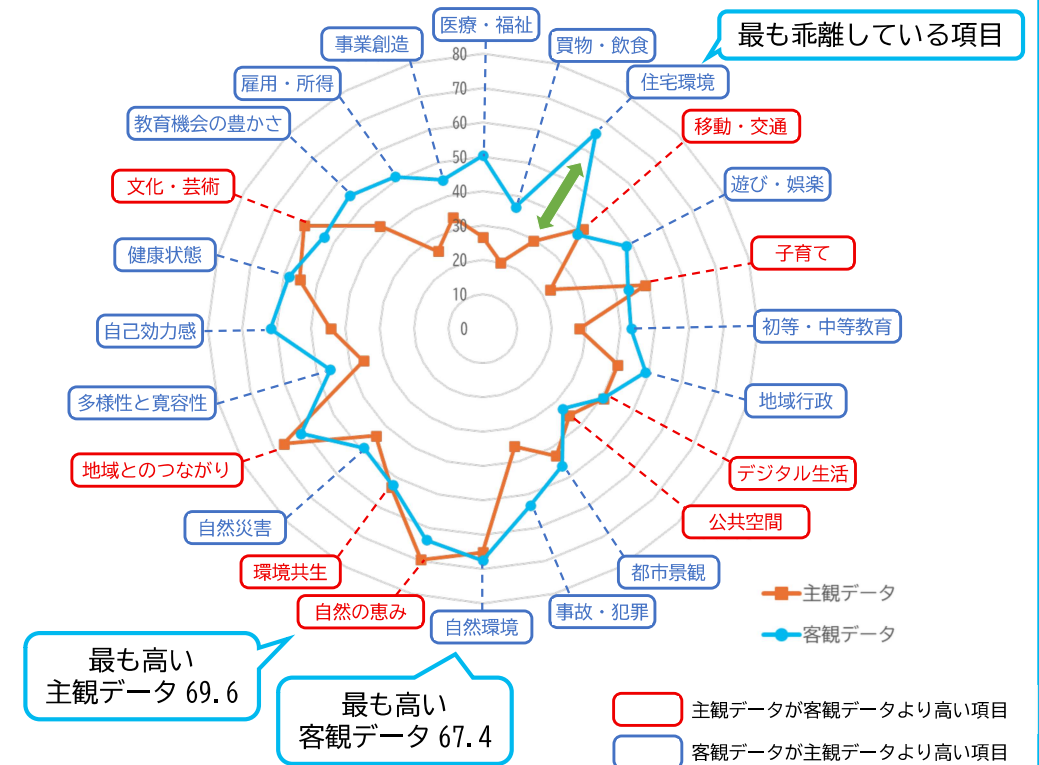


乗合タクシーまいちゃん号利用者数の推移



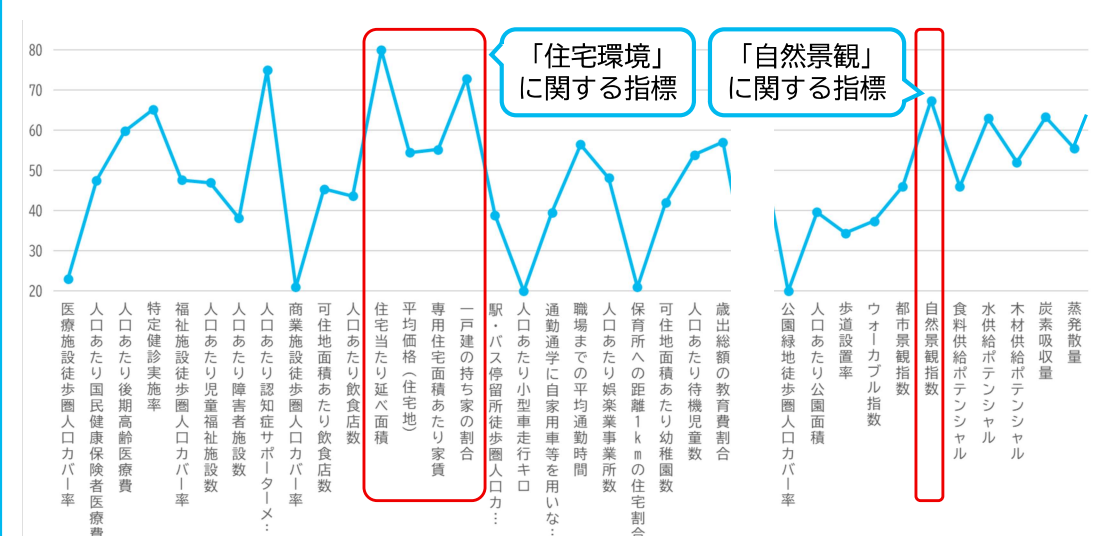
ウェルビーイング

2025年度版（令和7年度版）Well-Being 個別調査
（「暮らしやすさ」と「幸福感（Well-being）」）



※主観データ：アンケート調査から算出した市民のウェルビーイング（幸福感）
※客観データ：各種オープンデータから測定した暮らしやすさ

2025年度版（令和7年度版）Well-Being 個別調査
（「暮らしやすさ」（客観データ）に関する指標）



4. ブランドコンセプト

■ブランドコンセプト

本市のシンボルでもある伊吹山は、その雄大な山容や多様な自然環境、歴史的価値ばかりでなく、その存在自体が市内の魅力ある風土形成の根幹をなしています。また、この山と対をなす琵琶湖は、滋賀県のみならず近畿 1,450 万人の生活を支える「命の水」の供給源となっています。

米原市シティセールスプランでは、本市と伊吹山の存在を「びわ湖の素」に例え、大都市へのアクセスが高い地域と、自然豊かな地域を合わせ持つ特長を生かした米原流の豊かな暮らしを基にした「びわ湖の素 米原」をブランドコンセプトとして掲げ、引き続きこのブランドコンセプトを継承して総合的なプロモーションを展開します。

ブランドコンセプト

『びわ湖の素 米原』

<エピソード>

生まれたときから伊吹山があった。
ただものではない雪がつもる。
できたての水がこんこんと湧く。
からだもよろこぶ四季がめぐる。
恋したくなるほどステキな〇〇が育つ。
山から里から湖からの道が結ばれ、つながる人々。
あの人もこの人もこの道を通り日本のモトを育てた。

びわ湖の素 米原
だから

ヒトが生きるにはココチよい。

ロゴマークは、「一滴の水が宇宙全体を潤す」という「一滴潤乾坤」（いってきけんこんをうるおす）の言葉から、「すべてののはじまりは一滴の水である」という意味の「乾坤の一滴」からイメージしたものです。

豊かな自然に恵まれる水は、永遠のものではなく、自然を守り、磨き続けた結果としてもたらされるものであり、これからも自然を守り、磨き続ける宝石の原石のような存在であることから、水滴と元石がメインモチーフとなっています。



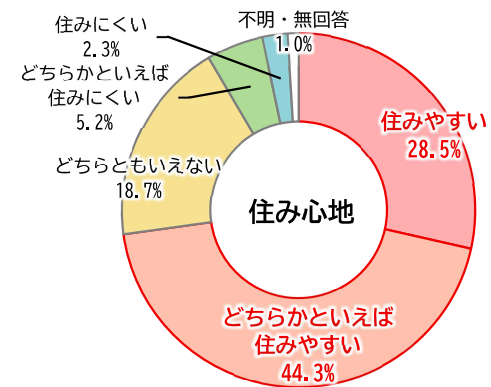
■特徴的な魅力

自然、文化、暮らしの中に息づく「米原らしさ」を、十の彩りで描いています。

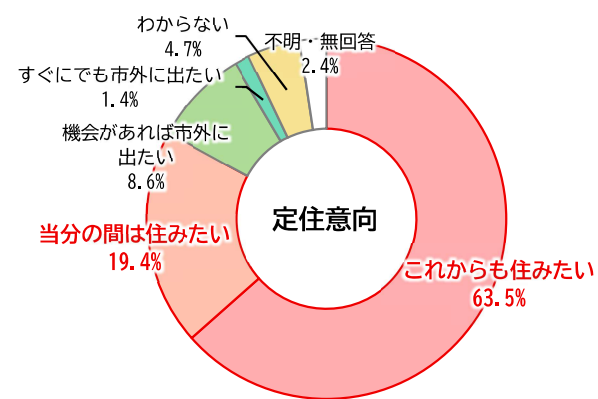


5. 市民の意見 (1) 市民アンケート

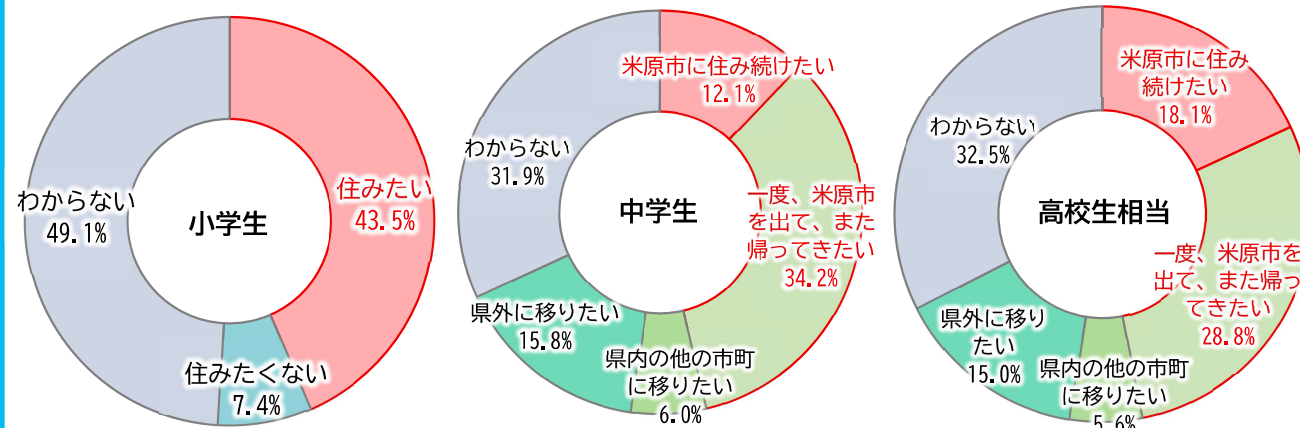
▶ 『住みやすい』は **72.8%**



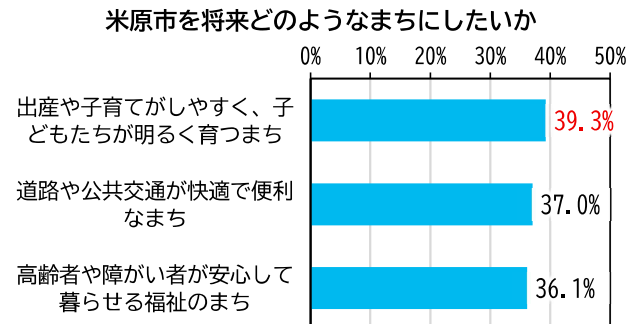
▶ 『これからも住みたい』は **82.9%**



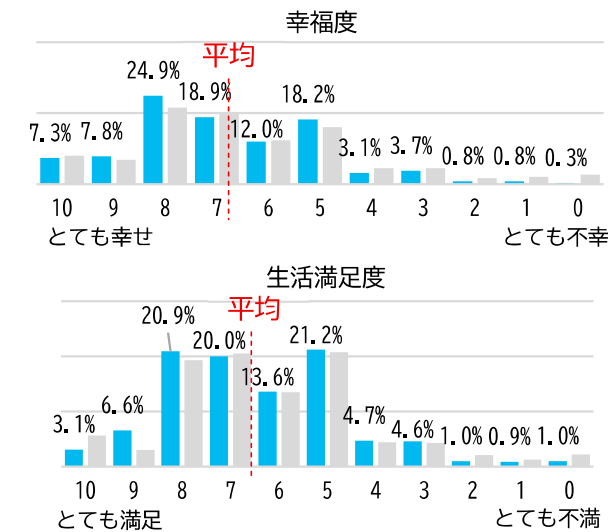
▶ 小学生の「住みたい」は **43.5%**、中学生、高校生相当の定住意向（「米原市に住み続けたい」と「一度、米原市を出て、また帰ってきたい」の合計）は、それぞれ **46.3%**、**46.9%**



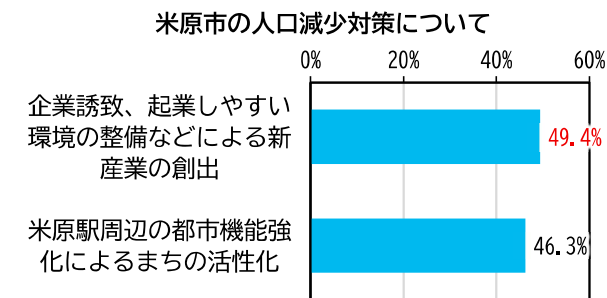
▶ 将来どのようなまちにしたいかについて、『出産や子育てがしやすく、子どもたちが明るく育つまち』は **39.3%**



▶ 幸福度の平均は **6.8**、生活満足度の平均は **6.4**

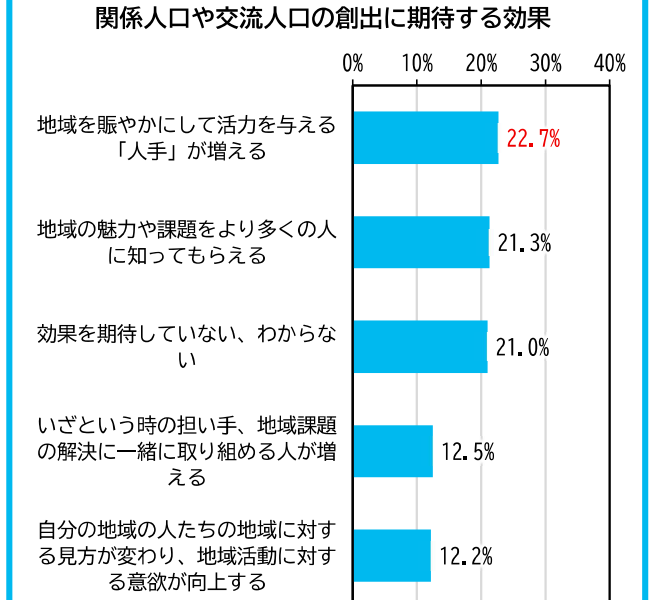


▶ 人口減少対策について、『企業誘致、起業しやすい環境の整備などによる新産業の創出』が **49.4%**

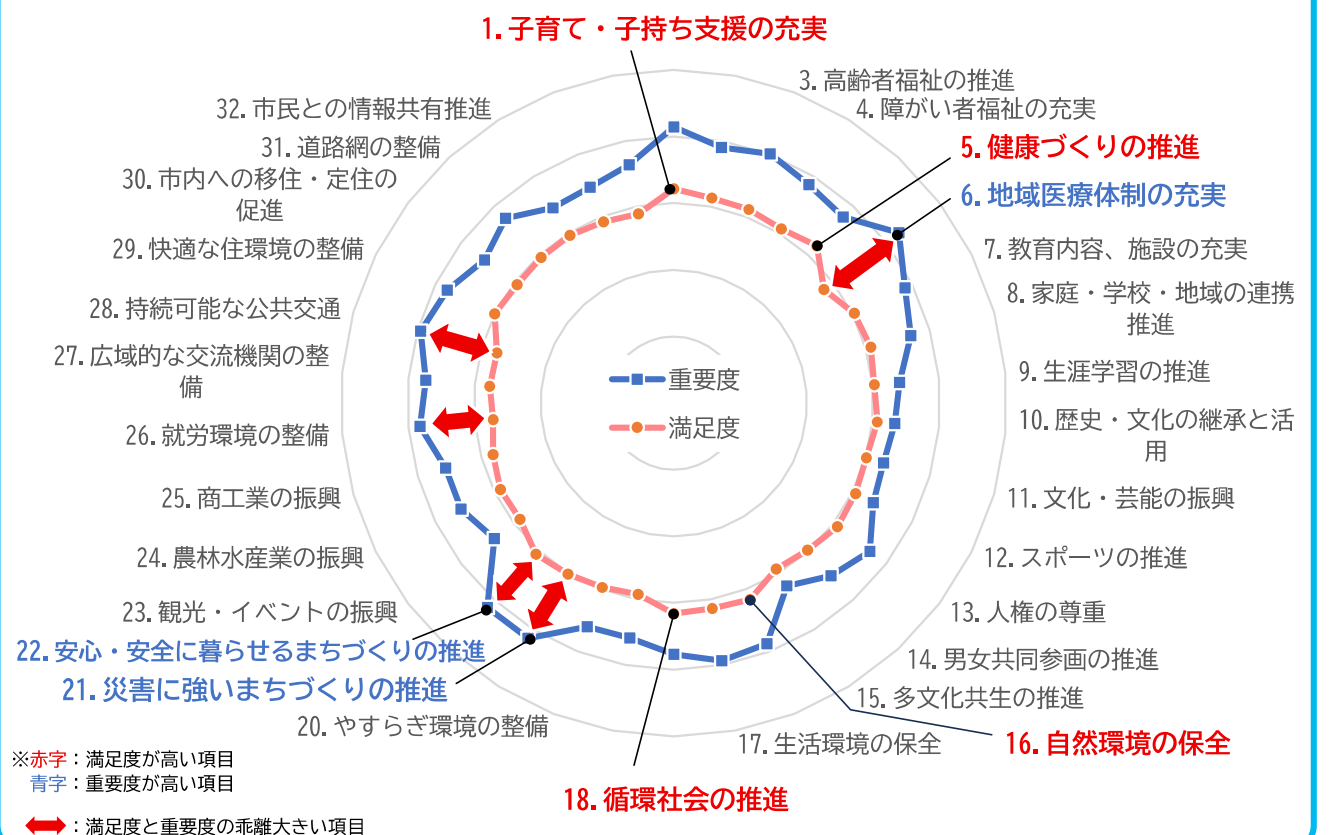


▶ 総合戦略の目標に関する状況について、『14. 健康寿命が延び、自分らしく暮らせるまちになっている』が「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の割合が最も高い

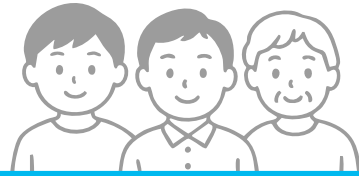
▶ 関係人口や交流人口の創出に期待する効果は、『地域を賑やかにして活力を与える「人手」が増える』が **22.7%**



▶ 満足度が高い施策は「子育て・子持ち支援の充実」、重要度が高い施策は「地域医療体制の充実」



5. 市民の意見 (2) 各種ワークショップ



市民ワークショップ



米原市の良いところ

- ・自然が身近にある（伊吹山や琵琶湖など）
- ・郷土愛がある人が多く、地域の人優しい！

住み心地のよい 米原市にするには…

- ・自然が引き継がれるまちに！
- ・交通手段の確保
- ・コミュニティの場所を増やす

めざす米原のミライ

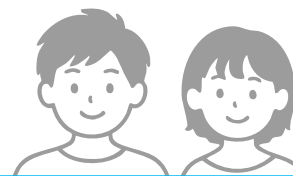
- ・支援が必要な方も住みたい場所で住めるまち
- ・伊吹山の生態系の保全活動を行う
- ・DX、AI、ITで市民の声を集めてほしい

米原市の良いところ

- ・高速 IC があり、交通の便が良い
- ・自然豊かで治安が良い

米原市の課題

- ・遊ぶところや住むところの選択肢が少ない
- ・働く場所がない



米原ミライ創造セッション

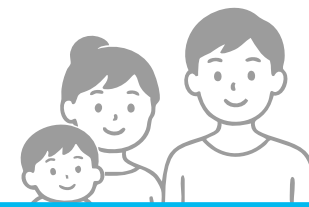


住み心地のよい 米原市にするには…

- ・スタートアップ企業や起業を応援する仕組みづくり
- ・産業施設の誘致を行い、子どもに優しいまちへ！

めざす米原のミライ

- ・若者や企業がいいきと活躍できるまち
- ・安全に暮らせる整備
- ・たくさんある空き家を活かす取組を！



すくすく子育てカフェトーク



子育てしやすいと 実感したところ

- ・自然豊かで子どもを育てやすい
- ・高校まで医療費がかからない
- ・子ども食堂が楽しそう
- ・給食がおいしくて品質が良い→維持してほしい

教育面の課題

- ・子どもを中心に据える教育を！
- ・通学バスが欲しい
- ・自宅以外に学習できる場がほしい

あともう少し 頑張してほしい…

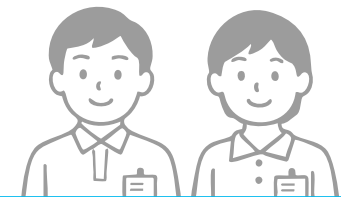
- ・子どもと行ける、食事や買い物の場所が欲しい
- ・親同士が話せる場所を作してほしい
- ・地域と学校のつながりを強くしてほしい
- ・市内に病院が少ない

米原市の良いところ

- ・活用できる土地や家屋がある
- ・豊かな自然がある

米原市の課題

- ・若い人が少ない
- ・空き家が多い



若手職員ワークショップ



ミライの米原は…

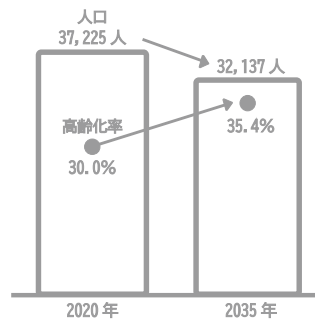
- ・疲れたらまいばら
- ・幸せが見つかるまち まいばら
- ・究極のベッドタウン

めざす米原のミライ

- ・子ども、障がい者、高齢者をもつ家族を支える
- ・みんなで助け合い、支えあい、教えあう
- ・公的な居場所になりえる場所を作る
- ・市民全員が参加できる大きいつながり

6. 今後のまちづくりの主な課題

人口減少・少子高齢化への対応

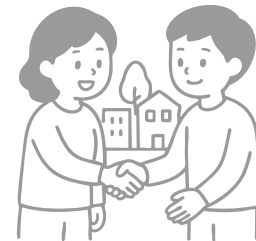


- 2035年の人口は32,137人まで減少し、高齢化率は35.4%に上昇すると予測されています。
- 急激な人口減少・少子高齢化に歯止めをかけつつ、人口減少や資源制約という避けられない「縮小」を受け入れつつ、地域や生活の質を「充実」させる「縮充」の発想でまちづくりを進める必要があります。



「ひと」と「企業」に選ばれるまちづくり

- 恵まれた立地・交通条件をはじめ、自然や歴史文化、人のつながりなど多様な地域資源を有しています。
- これらを守り、活かし、磨き上げることで、「暮らす・働く・遊ぶ・創業・立地するなら米原市」と、ひとや企業に選ばれるまちづくりが必要です。



地域コミュニティ・地域福祉・医療の再編



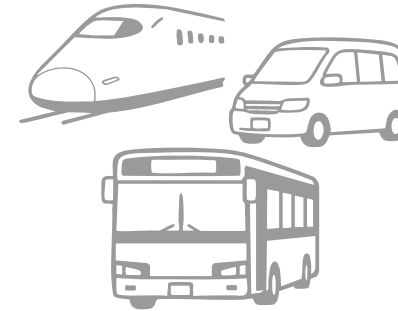
- 地域のつながりが強く、支え合い活動が活発であることが本市の強みです。
- 福祉分野の専門人材の確保、将来を見据えた地域コミュニティ、地域福祉および地域医療の体制・仕組みの再構築が必要です。

こどもまんなか社会の実現

- 深刻な少子化、虐待や不登校、ヤングケアラーの増加など、子どもと子育てを取り巻く課題は多様化・深刻化しています。
- 子どもをまんなかに、多様な主体が子育て世帯を支える地域社会の実現に取り組む必要があります。



持続可能な移動手段の確保



- 新幹線駅や高速道路インターチェンジ、鉄道、路線バスや乗合タクシーまいちゃん号などが日常の移動を支えています。
- 人口減少や高齢化を見据え、バス運行の効率化や運転手の確保、利用促進など、持続可能な移動手段の維持・確保に取り組む必要があります。

防災力の強化

- 自然災害の激甚化・頻発化が進み、ハード対策だけでは安全・安心の確保が難しくなっています。
- 専門機関や行政、地域連携による危機管理体制の強化や、避難時に支援を必要とする住民への対応策の整備など、防災力の強化が必要です。



カーボンニュートラルの取組



- 脱炭素社会の実現に向け、国は2050年カーボンニュートラルを掲げ、本市も令和4年（2022年）に脱炭素先行地域に選定されています。
- 再生可能エネルギーの利用促進や豊かな森林・農地の保全に取り組む必要があります。

多様な主体との連携・協働の推進が必要

- 人口減少・高齢化の進展により、地域社会や地域文化の担い手が不足し、これまでの取組の継続が難しくなっています。
- 各主体間の連携を強化し、新たな仕組みにより、米原市に関わり続ける人を増やしていく必要があります。



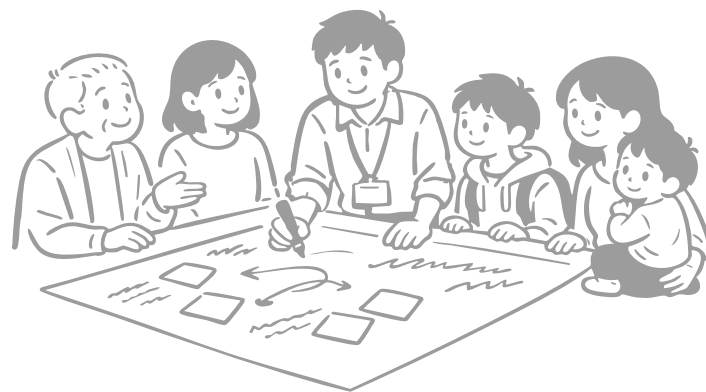
DXの推進による課題の解決



- デジタル技術は、情報伝達の迅速化や非接触・非対面の取組を支える重要な手段です。
- 需要と供給やシェアリングのマッチング、リモートセンシングなどデジタルの力を最大活用して様々な課題の解決に取り組む必要があります。

第2章

基本構想



1. 基本理念

米原市自治基本条例の精神に立脚し、
まちづくりの全ての分野にわたり
重視していく考え方

幸福を追求する

量的充足を追い求めるだけでなく、市民のニーズを踏まえ、暮らしの質の向上、満足度の向上を通じて、市民が幸福を実感できるまちをめざします。

挑戦する

米原市が持つさまざまな魅力や資源、可能性を生かし、新たな視点や技術を採用入れ、変化を恐れずに市民が望む暮らしをともに創り、総力をあげて挑戦を応援するまちをめざします。

つながる

世代を超えたひとのつながり、地域を超えたつながり（連携）、自然環境や風土、歴史・伝統を将来にわたって継承する時を超えたつながり。孤立や断絶を防ぎ、つながりで輝くまちをめざします。



2. 将来像

めざす将来像は、人を大切にする視点のもと、まちづくりは行政だけが担うものではなく、市民一人ひとりが主役である、自分ごととしてまちづくりに関わってほしいという願いを込め、「あなたが笑い わたしも笑う 幸せが生まれるまち ～しずくを恵みに、未来を楽しむ米原びと～」としました。

市民のシビックプライド（誇り）は、伊吹山、びわ湖、三島池といった「自然環境の豊かさ」にあります。一人ひとりの心身の健康や充足度を大切に、すべての人が幸せを感じ、力を合わせることで希望が生まれる、幸せが生まれるまちをめざします。

「あなたが笑い わたしも笑う 幸せが生まれるまち」 しずくを恵みに、未来を楽しむ米原びと

～あなたが笑い～

一人ひとりに活躍の場があり、挑戦が共感を得て応援される。それぞれに応じた支援の仕組みがあり、心も身体も充足感とエネルギーに満ち、個性を存分に発揮できる。

市民一人ひとりが挑戦し、自然と笑みがこぼれる。

～わたしも笑う～

だれかの活躍や挑戦を心から応援する。その姿に勇気づけられ、「わたしも」一歩踏み出す。だれかを支え、だれかに支えられる確かなつながりに、安心を感じ、自然と顔がほころぶ。

～幸せが生まれるまち～

すべての人々がやりがいを持って、つながり、力を合わせることで幸せが生まれる。新しいこと、楽しいことが米原から生まれ、希望があふれる米原に惹きつけられる人がいる。

笑顔がつながり、幸せが生まれるまち。

～しずくを恵みに、未来を楽しむ米原びと～

「しずく」は、市民の誇りである自然や水の恵み。「楽しさ」や「面白さ」は、「やってみたい」「やるぞ」という前向きな気持ち、挑戦への意欲につながる。めざすまちは、米原ならではの「恵み」を活かし、それを「楽しむ」人々、挑戦する人々が溢れるまち。



第3次米原市総合計画の将来像のポイント

● ポイント1 自治基本条例の理念を実現する目標

◇米原市自治基本条例には、「世代を超えて住み続けられる魅力あるまちづくり」が“普遍的なまちづくりの目標”として明記されています。

◇「住み続けられる魅力あるまちづくり」が普遍的な目標であることを前提に、第3次米原市総合計画には2027年～2037年のまちづくりの到達点、目標として「2037年のめざす米原市の姿」を掲げます。



● ポイント2 市民と共感できる目標

◇市民ワークショップでは、自然環境の豊かさや交通の要衝としての地の利、暮らしに身近な歴史文化、祭りなどが誇れる魅力として共有されました。

また、将来像としては「みんなでつくる」、「個々が輝く」、「ポテンシャルを最大限に活かす」、「グラデーションのあるまち（多様な色彩や濃淡の違いが断絶することなく重なり合い融和する）」、「全てが繋がり両立するミライ」が提案されました。

◇まちづくりは、行政や住民、事業者等の、多様な主体が対話と協働のもとで取り組むものであり、市民の声を反映し共感できる目標を掲げることが重要です。

● ポイント3 11年後の社会にふさわしい目標

◇AIやロボット、自動運転などの科学技術・情報通信分野、遺伝子治療などの保健医療分野、リニア中央新幹線や整備新幹線などの高速交通体系の整備といった様々な技術の社会実装・進展、さらには、地球温暖化、災害リスクの高まりへの対応など、近い将来に起こり得る想定すべき事象を踏まえつつ、目標を設定することが重要です。

◇「幸福度」や「well-being（ウェルビーイング）」が重要視される背景には、経済的・物質的豊かさに加えて、一人ひとりの心身の健康・充足度、福祉に着目し、だれもが活躍できる社会が重要であるという考え方があります。

◇これまで総人口をまちづくりの目標として掲げてきましたが、地方都市では中長期的な人口減少が前提となる時代において、人口だけではない目標指標を設定することが重要です。

3. 「将来像を実現するために大切にしたい姿勢（分野ごとの政策）」について

第2次米原市総合計画では、目指すまちの将来像を実現するため、6つのまちづくりの基本目標を定めていました。

第3次米原市総合計画では、将来像を実現するために、これまでのまちづくりの目標を踏まえつつ、市民との対話と協働のもとで社会の変化にも柔軟に対応していくため、『将来像を実現するために大切にしたい姿勢（分野ごとの政策）』を定めます。

令和5年4月に「子ども基本法」が施行され、第3次米原市総合計画策定のための市民意識調査においても、「出産や子育てがしやすく、子どもたちが明るく育つまち」が目指す将来像として最も多くの回答が寄せられたこと、今後、少子高齢化が進展する中で、家庭、学校、地域が連携を図り『子ども』を育んでいくことが重要になることも踏まえ、『子ども』に関する取組は、『子ども・教育・人権』として整理しました。

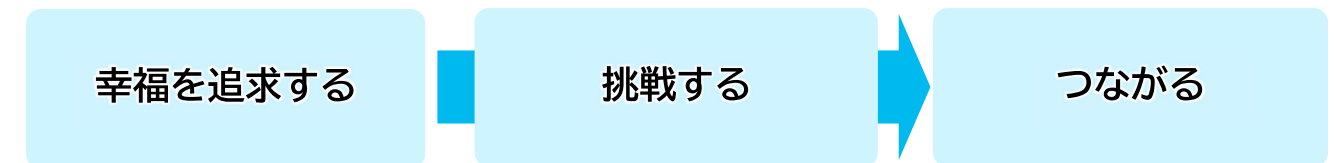
また、令和6年7月豪雨による土砂災害など、日本全体で自然災害の頻発化・激甚化が進展しており、今後も進展する高齢化社会への対応も見据え、一人ひとりでできること、みんなで協力し合いながら対応することなど、自助・共助・公助の観点から、『福祉・防災』の取組を整理しました。

さらに第3次米原市総合計画策定プロセスで実施した市民意識調査やワークショップ等では、伊吹山や三島池などの「自然」が地域の誇りであるとの意見を頂き、脱炭素社会の実現やSDGsの推進、GX（グリーントランスフォーメーション）の推進など、環境分野に求められるニーズも高まっていることから、『自然・環境』の取組を整理しています。

『産業・経済』、『暮らしの土台』、『協働・地域経営』につきましては、第2次米原市総合計画に基づく『産業経済』、『都市基盤』、『都市経営』の各種取組を踏まえつつ、社会動向を見据えつつ、継続した取組を整理しています。これら6つの姿勢は、個別に独立したものではなく、相互に関連し合いながら、将来像の実現を目指すものです。

■基本理念

米原市自治基本条例の精神に立脚し、まちづくりの全ての分野にわたり重視していく考え方



■将来像

「あなたが笑い わたしも笑う 幸せが生まれるまち」

しずくを恵みに、未来を楽しむ米原びと

■将来像を実現するために大切にしたい姿勢（分野ごとの政策）」



>>> 将来像を実現するために大切にしたい姿勢【子ども・教育・人権】

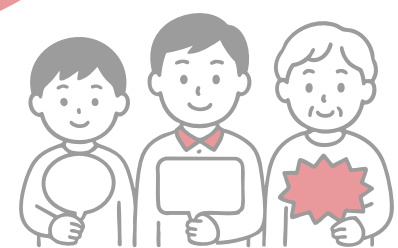
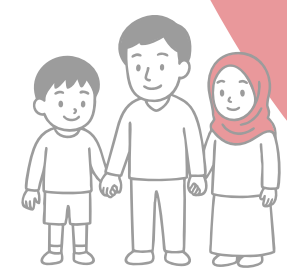
子どもから大人まで、
 全てのひとの育ちと学びに寄り添い、
 ともに育み合い成長し、
 誰もが尊重されるまちをめざします。



多様な主体が協働し、
 地域の特色を生かした
 活動を推進することで、
 すべての人の成長と挑戦を
 社会全体で支えていく
 が必要です。



ひとの“生きる”を
 みんなで優しく
 育みあう



生涯にわたる個人の成長や人権の尊重、
 さらには自然や歴史・文化といった私たちを取り巻く環境や
 先人の培ってきた想いを次世代へつなぎ、多様な人々が互いを認め合い、
 自分らしく輝ける共生社会の実現に取り組む姿勢を大切にします。

>>> みなさんからのご意見等

市民ワークショップ

子どもを
 支える人への支援
 主体性を育てる
 教育を

育休や預けやすい
 仕組みづくり
 家族で子育て！

すくすく子育てカフェトーク

子どもが安全に
 通学・遊べる環境を
 つくる
 通学バスの整備

子どもに優しい
 まちづくり
 子育てしやすい
 環境

若手職員ワークショップ

専門性の高い教育
 教育人材の確保や
 待遇の改善

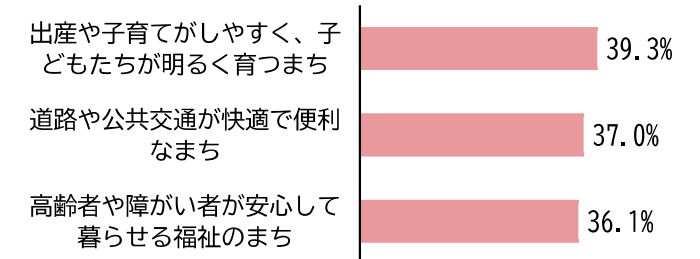
米原ミライ創造セッション

おいしい
 給食のクオリティ
 維持を！



▶ 市民がのぞむ将来像は
 「出産や子育てがしやすく、子どもたちが明るく育つまち」

◇市民アンケート調査では、米原
 市の将来像について、「出産や子
 育てがしやすく、子どもたちが
 明るく育つまち」が 39.3%と最
 も高くなっています。



>>> 関連するデータ

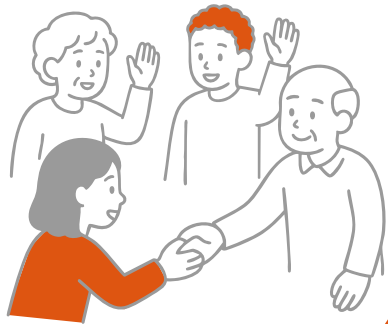


合計特殊出生率は全国平均を上回る数値で推移
 していますが、出生数は経年的に減少していま
 す。

小・中学校における教員1人当たりの児童数・生
 徒数は、滋賀県や全国よりも少なく、児童・生徒
 一人ひとりへの手厚い教育が行われています。

未来像を実現するために大切にしたい姿勢【福祉・防災】

市民・地域・行政が
強みを持ち寄り、
互いに補完し合うことで、
重層的に支え合う
安心なまちをめざします。



一人ひとりの「自助」と、
地域の「互助」、制度としての「共助」、
行政の「公助」が適切に連携し、
激甚化する災害や高齢化の進展に
備える必要があります。



自分ごと
として備え、
みんなで支え合う



自らの健康維持や事前の備えを促すとともに、
その基盤となる介護・医療体制や防災体制をしっかりと整えていく姿勢を大切にします。

みなさんからのご意見等

市民ワークショップ

誰もが住みたいと
思える場所で
住める環境

在宅避難の備え
避難所の周知
防災訓練の継続
熊等の危険への備え

医療体制の充実
安心して過ごせる
環境を！



若手職員ワークショップ

防災を自分ごと
として捉える

みんなで助け合い、支え
合い、教え合いながら、
子ども、障がい者、高齢
者を持つ家族を支える

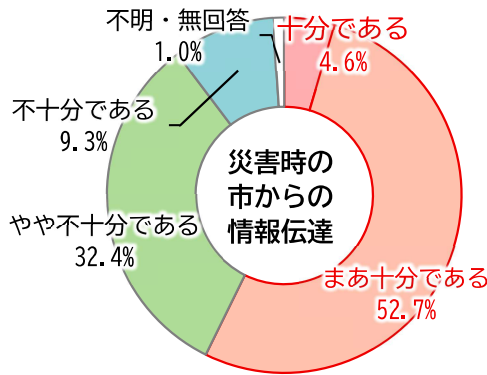
高齢者施設での
ボランティア活動
を支援する

自助・共助の
精神のもと
地域で支える
仕組みを

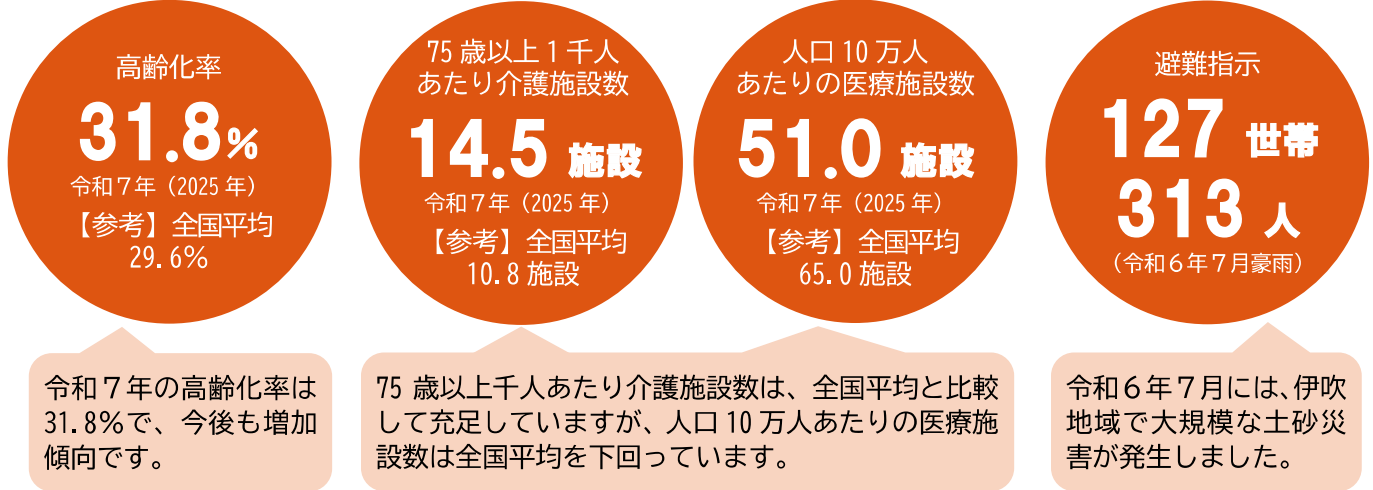
米原ミライ創造セッション

▶ 災害時の情報伝達体制は 「十分である」が57.3%

◇市民アンケート調査では、災害時の市からの情報
伝達体制について、「十分である」と「まあ十分
である」を合わせた割合が 57.3%で、課題があ
ります。

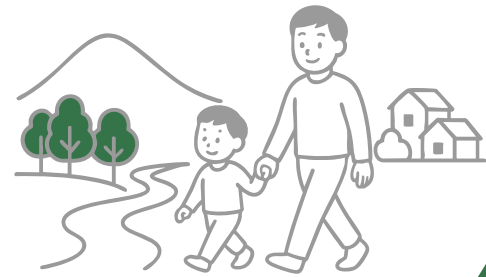


関連するデータ



未来像を実現するために大切にしたい姿勢【自然・環境】

豊かな自然環境を
次世代に引き継ぐとともに、
人間活動と自然環境が調和し、
持続可能な状態を形成していく
まちをめざします。



本市の自然環境は、
市民の誇りであり、
この自然の価値こそが「豊かさ」
であると、まず私たちが、
改めて実感することが必要です。



私たち人間の生活や産業活動と、
自然が共生するためには、
人間が知恵を絞って、状況に応じて最適な調和（バランス）の
とれた状態に「ととのえていく」という、能動的な姿勢を大切にします。



みなさんからのご意見等

市民ワークショップ

伊吹山や琵琶湖
の保全

子どものころから
環境を学べる機会

バランスのとれた
エネルギーの
使用を推進



若手職員ワークショップ

みんなで取り組む
体制づくり

エコバックの利用

すくすく子育てカフェトーク

山や農地の保全
植樹

琵琶湖周りの
掃除など

安全安心な
自然を守る！

米原ミライ創造セッション

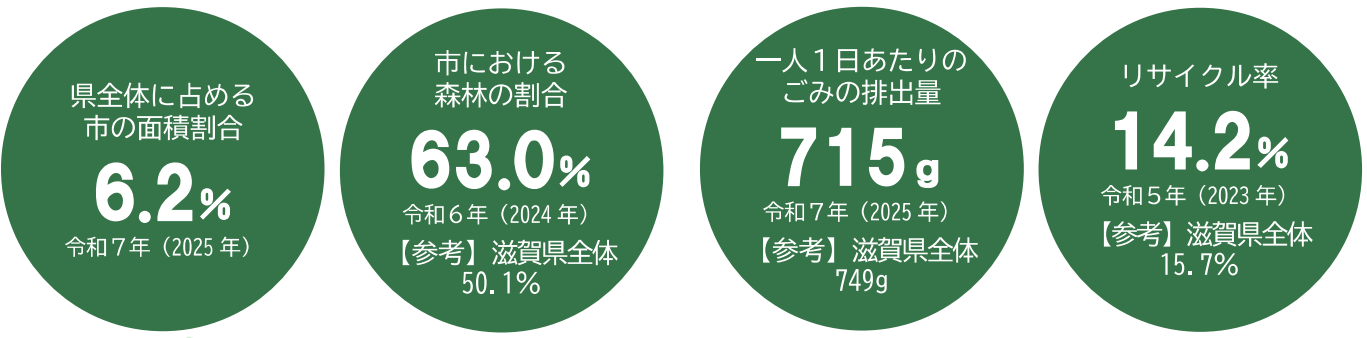
脱炭素
水資源の保全

外部から
高く評価される
環境づくり

▶ 市民が自慢できるところは
「伊吹山などの自然」

◇市民が自慢できるところや好きなのは、「伊吹山」、「琵琶湖」、「ホテル」などの自然に関することが多くなっています。

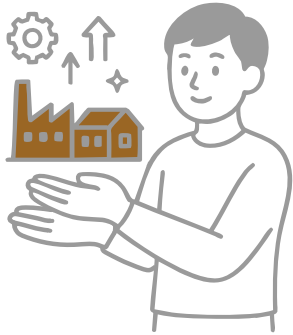
関連するデータ



市の面積は 250.4 km²で、県全体の 6.2%を占めています。伊吹山や霊仙山など、面積の約 63%が森林で、水と緑が豊かな自然豊かなまちです。

一人あたりのごみ排出量は県内平均より少なく、比較的小さい排出量を抑制できているエコなまちです。

本市の産業基盤と
 雇用環境に関する課題に対応し、
 地域の魅力を活かしながら
 新たな挑戦を促すことにより、
 地域経済が活性化したまちをめざします。



恵まれた風土を楽しみ、
 にぎわいとなりわいを
 生み出す

豊かな自然や、歴史、文化、
 地理的優位性等といった、
 地域固有の魅力・資源の価値を
 再認識し、その中での生活や
 活動を積極的に享受し、
 活用することが必要です。



本市の風土を「楽しんでもらう」ことを通じて、
 人の「交流」によって生まれるまちのにぎわい、
 多様な働き方や多彩な事業を「なりわい」として支え、
 生み出していく姿勢を大切にします。

市民ワークショップ

自然に優しい
 企業の誘致
 地域特性を活かした
 産業を広げる

スモールビジネスや
 起業、複業の支援

交通利便性を
 活かした産業づくり
 企業誘致を進める
 働く場所を増やす

すくすく子育てカフェトーク

子どもを
 誰でも長時間
 預けられるように
 子育て世帯もいきいきと
 働ける環境を！

若手職員ワークショップ

他市との連携 PR
 ものづくり産業の
 ブランディング化

地域循環施策の拡大
 駅周辺の活性化

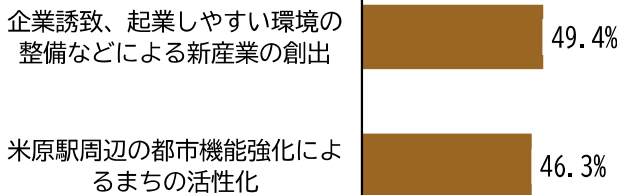
米原ミライ創造セッション

スタートアップ
 補助金などの支援
 楽しく働ける環境
 中小企業の魅力発信



▶ 力を入れるべき取り組みは
 「企業誘致、起業しやすい環境の整備など新産業の創出」

◇市民アンケート調査では、米原市が力
 を入れるべき取り組みについて、「企
 業誘致、起業しやすい環境の整備など
 による新産業の創出」が 49.4%と最も
 高くなっています。



>>> 関連するデータ

観光入込客数
194 万人
 令和 6 年（2024 年）
 【参考】169 万人
 平成 30 年（2018 年）

観光入込客数（宿泊）
25 万人
 令和 6 年（2024 年）
 【参考】24 万人
 平成 30 年（2018 年）

製造品出荷額等
6,649 億円
 令和 5 年（2023 年）
 【参考】滋賀県市町
 平均 4,831 億円

商品販売額
399 億円
 令和 3 年（2021 年）
 【参考】滋賀県市町
 平均 1,371 億円

観光入込客数は、令和 6 年（2024 年）には約 194 万人、
 宿泊客数は約 25 万人まで回復しています。

製造品出荷額等は、県
 内で 5 番目に多い状況
 です。

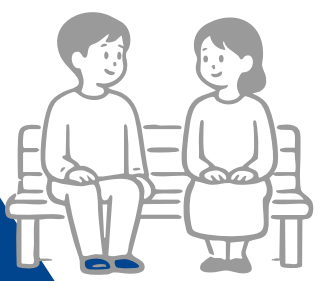
商品販売額は、県内
 で 6 番目に少ない状況
 です。

未来像を実現するために大切にしたい姿勢【暮らしの土台】

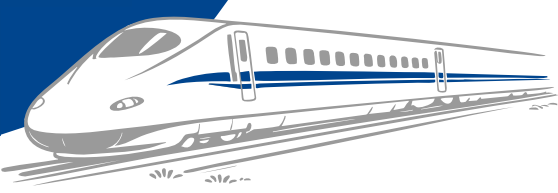
市民の日常生活に不可欠なインフラについて、機能整備にとどまらず、多様な主体が当事者意識を持ちつつ人に焦点を当てたより良い環境が整備されたまちをめざします。



「安心」を将来にわたって「持続」させるという意志のもと、道路、上下水道等を適切に維持管理することが必要です。



まちと暮らしを
ともに支え合い、
安心を灯し続ける



持続可能な公共交通と居心地良く住み続けられる都市構造の実現に向けて戦略的に取り組む姿勢を大切にします。

みなさんからのご意見等

市民ワークショップ

持続可能な都市基盤
コンパクトシティ
公園などの
生活基盤を整える

上下水道の
維持管理
既存施設の
計画的修繕

交通インフラの整備
車に乗れない人も
住みやすい

すくすく子育てカフェトーク

子どもたちだけで
安心して集まり
遊べる場所をつくる

若手職員ワークショップ



居場所になる公的な
施設をつくる
休校施設や空き家の
活用

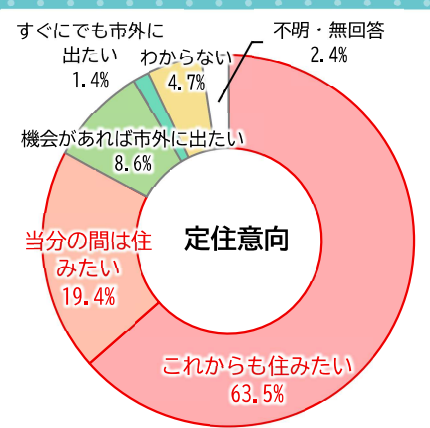
米原ミライ創造セッション

行きたいところに
行ける
交通手段の確保

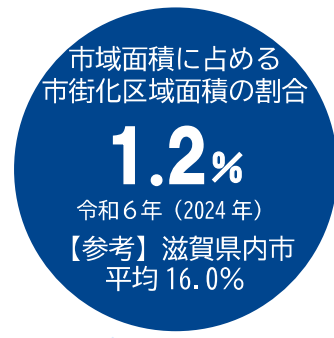
メリハリのある
土地活用を

▶ 「これからも住みたい」は
82.9%

◇現在の住み心地について、「住みやすい」と「どちらかといえば住みやすい」を合わせた割合は 72.8%で、これからの定住意向について、「これからも住みたい」と「当分の間は住みたい」を合わせた割合は 82.9%です。



関連するデータ



市街化区域の割合は、県内市の中で最も少ない状況です。



令和2年（2020年）に大きく減少しましたが、近年は回復傾向にあります。



令和6年（2024年）で路線バス利用者数は年間約14.9万人、乗り合いタクシーの利用者数は年間約5万人で推移しています。

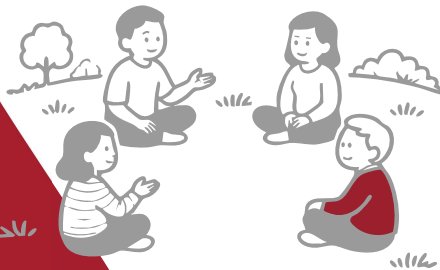


未来像を実現するために大切にしたい姿勢【協働・地域経営】

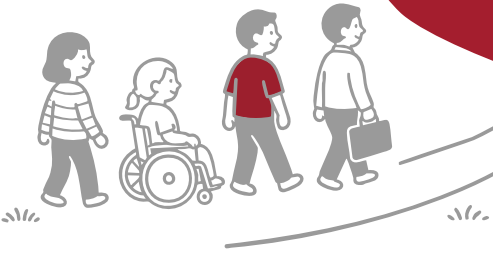
厳しい財政状況に対応し、
 持続可能な行財政運営を実現する
 とともに、多様な主体が関わる
 「共創」のまちづくりを進めます。



一人ひとりが自分ごととして
 関わるためには、
 多様な主体が手と手をつなぎ、
 対等な立場で対話し、
 協働する場が必要です。



まちの明日を
 つむぐため、
 手と手をつなぐ



現状維持の行政経営ではなく、
 11年後の未来像という未来に向けて、
 市民と行政がクリエイティブにまちを創り上げていく
 未来志向の姿勢を大切にします。

みなさんからのご意見等

市民ワークショップ

民間と行政の協働
 若者が住みたいと思える
 多様な魅力を！

駅前開発
 住民同士の
 ネットワーク構築
 地域全体に賑わいを

DX や IT、AI
 を活用し
 市民の声を集める

すくすく子育てカフェトーク

地域と学校の
 つながりを強くする

若手職員ワークショップ

市について考えるイベント
 を実施する
 市内や市外の人たちに SNS を見て
 興味を持ってもらう

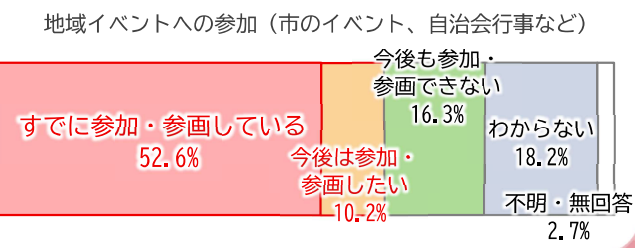
米原ミライ創造セッション

民間の力や
 ネットワークを
 活かす



まちづくり活動の参加・参画について 「すでに参加・参画している」は 52.6%

◇市民アンケート調査では、まちづくり活動
 の参加・参画について、「すでに参加・参
 画している」が 52.6%、「今後は参加・参
 画したい」を合わせた割合は 62.8%です。



関連するデータ

市税収入額（歳入）
65.3 億円
 令和 6 年（2024 年）
 【参考】63.8 億円
 平成 30 年（2018 年）

自主財源比率
41.2%
 令和 6 年（2024 年）
 【参考】全国平均
 34.4%
 令和 5 年（2023 年）

人件費（歳出）
41.2 億円
 令和 6 年（2024 年）
 【参考】30.4 億円
 平成 30 年（2018 年）

扶助費（歳出）
39.0 億円
 令和 6 年（2024 年）
 【参考】31.1 億円
 平成 30 年（2018 年）

歳入の根幹となる市税収入は令和 6 年度（2024 年度）
 は約 65.3 億円です。自主財源の比率は 41.2%であり、
 全国平均の 34.4%を上回っています。

歳出のうち、令和 6 年度（2024 年度）は、人件費が約
 41.2 億円、扶助費が約 39.0 億円であり、ともに増加
 傾向が続いています。

第3章

基本計画

(総論)

1. 基本計画の考え方

本市は一人ひとりが笑顔で幸せを実感できるまち「**あなたが笑い わたしも笑う 幸せが生まれるまち**」を将来像として掲げています。将来像の実現に向けて、基本計画全体の目標として、「幸せの指標『幸福度』7.0」を2037年の目標値として掲げます。

基本計画では、6つの「将来像を実現するために大切にしたい姿勢（分野ごとの政策）」に基づき、14の基本目標を整理しています。それぞれの基本目標では、市民や事業者のみなさんとの対話を踏まえ、「幸せが生まれる2037年の米原の姿」、「幸せが生まれるみんなの取り組み」、市民の「暮らしやすさ」と「幸福感（ウェルビーイング Well-being）」を数値化・可視化する「目標数値」をまとめています。市民・事業者・行政が想いを共有し、取り組んでいきます。



※「幸せの指標『幸福度』」は、0～10点で評価する指標で、7点を超えると高い水準です。

2. 計画の体系図



3. S D G s の推進

S D G s は、令和 12 年（2030 年）までに持続可能でより良い世界を目指すための国際的な目標です。国連が掲げた「人類がこの地球で暮らし続けていくために、2030 年までに達成すべき目標」として、令和 12 年（2030 年）以降も、誰一人取り残さない S D G s の方向性は継承されていくと考えられます。

世界においては、分断と対立が深まる中、「食料システム」、「エネルギー」、「デジタル接続」、「教育」、「雇用・社会保障」、「気候変動と生物多様性」などの分野において、政策転換と投資の集中が求められています。S D G s の目標は、世界中の国だけでなく、日本においても、すべての人が自分ごととして、それぞれが取り組んでいく必要があります。

本計画においても、S D G s の理念を踏まえながら、市民・事業者・行政の協働の取り組みと関連付け、市民一人ひとりが笑顔で幸せを実感できる、持続可能なまちづくりを推進していきます。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



第4章

基本計画

あな た が 笑 い
わ た し も 笑 う
幸 せ が 生 ま れ る ま ち



し ず く を 恵 み に、
未 来 を 楽 し む 米 原 じ と

一人ひとりに活躍の場があり、挑戦が共感を得て応援されること、だれかの活躍に勇気づけられ「わたしも」一歩踏み出すこと。重なり合い、つながりの中から新しい楽しさや幸せが生まれていくまちづくりに取り組んでいきます。

幸せが生まれるみんなの取り組み

01 こども・子育て

- ▶ こどもが安心して自分らしく過ごせる居場所づくりを推進するため、公共施設の積極的な活用や、地域資源を生かした活動拠点を整備するとともに、放課後児童クラブ等の質の向上および受入体制の充実を推進します。
- ▶ 保護者が安心して子育てができる環境づくりと、子育ての喜びが感じられる支援の充実を図るとともに、地域全体でこどもたちを見守り、こどもたちが地域とのつながりの中で安心して健やかに成長できるまちづくりを推進します。
- ▶ 保護者一人ひとりの子育てニーズとそれを支援する市民のサポートが日常的にマッチングされる仕組みをつくります。

02 若者応援

- ▶ 市、事業所、教育機関等の連携により、米原市内に在住または通学している中高生が、市内外のさまざまな職業や経験のある人と、オンライン・対面を問わず、交流できる取り組みを進めます。
- ▶ 子育てや地域のつながりの大切さを実感できるよう、子育て世帯やこどもが集まる場所に、若者が仕事やボランティアで活動できる機会をつくります。
- ▶ 若者が将来に希望を持ち、地域の中で安心して暮らし続けられるよう、若者が望む出会いや交流、活躍の機会をつくります。

【こども・教育・人権】 基本目標1 こども・若者

幸せが生まれる2037年の米原の姿

こどもや若者が自分らしく挑戦できる環境があり、
地域に元気と希望が広がっている

基本目標1の
目標数値
(2037年に
実現する
幸福実感指標)

「米原市は、こどもたちがいきいきと暮らせる」 **40%**

「非常に当てはまる」または「少し当てはまる」と
回答した市民の割合（市民意識調査）〔参考〕27.5%(2025年)

- こども・子育て -

こどもの個性が輝き、
子育て家庭が安心して
暮らせる仕組みが
充実している

目標数値
(2037年に実現する目標)

30%

「子育て支援・補助が手厚い」に「非常に当てはまる」または「少し当てはまる」と回答した市民の割合（市民意識調査）〔参考〕22.6%(2026年)

- 若者応援 -

若者一人ひとりが故郷へ愛着と誇りを持ち、
誰かの役に立っているという実感と
未来への希望を抱きながら、
成長し、輝いている

目標数値
(2037年に実現する目標)

700人

中高生が将来を考える
交流の取り組みに対する協力者
(登録人数)



【こども・教育・人権】 基本目標2 **教育**

幸せが生まれる2037年の米原の姿

学びあいが身近にあり、
一人ひとりが**地域の未来をつないでいる**



- 生涯学習 -

生涯にわたり身近な地域で学びあい、
文化や情報に触れながら、
ともに豊かな未来を創造している

基本目標2の
目標数値
(2037年に
実現する
幸福実感指標)

「米原市には、学びたいことを学べる機会がある」 **30%**

「非常に当てはまる」または「少し当てはまる」と
回答した市民の割合（市民意識調査）〔参考〕17.5%(2025年)

目標数値
(2037年に
実現する目標)

15%

「自己表現や活躍できる場がある」に「非常に当て
はまる」または「少し当てはまる」と回答した市民
の割合（市民意識調査）〔参考〕8.7%(2025年)



- 就学前・学校教育 -

安全安心な環境のもと、
充実した教育・保育と質の高い給食を通じて、
こどもたちの健やかな成長と
「生きる力」が育まれている

目標数値
(2037年に実現する目標)

85% (小学生)
80% (中学生)

将来の夢や目標を持っている
児童生徒の割合（全国学力・
学習状況調査）〔参考〕小学生
79.5%、中学生 61.7%(2025年)

- スポーツ -

スポーツを通じて喜びを分かち合い、
スポーツを「する人」だけでなく、
「ささえる人」「みる人」も
等しく幸せを感じている

- 歴史文化 -

歴史文化や文化財が未来へと受け継がれ、
人々の心に、将来にわたって
「住み続けたい」という
深い愛着と誇りが息づいている

- 学校・家庭・地域連携 -

地域の特色や食文化を学びに生かし、
地域全体でこどもたちの
成長と挑戦が支えられている



目標数値
(2037年に
実現する目標)

85% (小学生) **80%** (中学生)

地域や社会をよくするために何かしてみたいと
思う児童生徒の割合（全国学力・学習状況調査）
〔参考〕小学生 82.3%、中学生 79.8% (2025年)

目標数値
(2037年に実現する目標)

20%

「文化・芸術・芸能が盛んで誇らしい」に「非常に
当てはまる」または「少し当てはまる」と回答した
市民の割合（市民意識調査）〔参考〕12.1%(2025年)



幸せが生まれるみんなの取り組み

01 就学前・学校教育

- ▶ 一人ひとりの心を育て、学びや自分の個性・才能を自らの人生や社会のために生かすことができるこどもを育成するため、自己肯定感と自己有用感を高める保育・教育を推進します。
- ▶ 誰もが自分らしく学ぶことができ、誰一人取り残されず、一人ひとりの可能性が最大限に引き出される多様な学びの場をつくりま
- ▶ 「園が好き」「友だちが好き」と感じられるような保育、個々のこどもの多様性を尊重する保育を推進します。

02 学校・家庭・地域連携

- ▶ 家庭教育は、全ての教育の基盤という認識のもと、学校や園での学びを高める力となるよう、学校、家庭、地域が連携して、家庭教育力を高める取り組みを進めます。
- ▶ 米原の自然・歴史を学ぶ機会を充実させ、地域の活性化や地域課題の解決に向けて主体的に取り組もうとする人づくりを推進しま
- ▶ 学校給食における地場産食材の活用や、郷土料理の提供、学校と連携した地域農産物の収穫体験等を通じて、地域の食文化への理解を深めるとともに、食材の生産者に対する感謝の心を育みます。

幸せが生まれるみんなの取り組み

03 生涯学習

- ▶ 「学びあいステーション」を生涯学習の核に据え、学習施設の枠を超えた「地域コミュニティの拠点」としての機能を生かします。これにより、市民や団体等が生涯にわたり豊かに学び合い、いきいきと活動が続けられる環境づくりを進めます。
- ▶ 市民の生涯学習活動を支援するため、多様化する住民ニーズに対応したさまざまなテーマの出前講座やまなびサポーター制度（市民講師）の活用に加え、図書館の資料や情報、学習・交流機能を生かしながら、市民の暮らしに役立つ情報を届けます。
- ▶ 市民、団体、民間事業者、NPO等が「文化芸術」を通じてつながり、こどもから高齢者まで誰もが文化芸術に触れられる機会をつくり、多様な表現活動に挑戦する人を応援するとともに、市民の文化・芸術活動の促進を図ります。

04 歴史文化

- ▶ 歴史文化（地域の宝、資源）を次世代へつないでいくため、学校や地域との連携を強化するほか、広報まいばら、伊吹山テレビ、講座等を通じて、市民に歴史文化財等の魅力や価値の共有を進めます。

05 スポーツ

- ▶ スポーツによって、人と人、地域と地域がつながるまちを目指し、生涯にわたって、誰もが気軽にスポーツを体験し、体を動かす楽しさを実感できる機会をつくりま

【こども・教育・人権】 基本目標3 人権

幸せが生まれる2037年の米原の姿

違いを尊重し合う気持ちが広がり、
みんなが自分らしく輝いている

ひとの「生きる」を
みんなが優しく
育みあう

基本目標3の
目標数値
(2037年に
実現する
幸福実感指標)

「この町内（集落・自治体）には、
どんな人の意見でも受け入れる雰囲気がある」 **25%**

「非常に当てはまる」または「少し当てはまる」と
回答した市民の割合（市民意識調査）〔参考〕12.6%(2025年)

- 人権 -

市民一人ひとりの個性・人権が尊重され、
多様な主体が支え合いながら共生し、
誰もが生きがいや幸せを実感している

目標数値
(2037年に
実現する目標)

25%

「自分のことを好ましく感じる」に「非常に当てはまる」または「少し当てはまる」と回答した市民の割合（市民意識調査）〔参考〕19.1%(2025年)

- 多様性・多文化 -

個性や違いを知り、認め合い、
誰もが活躍できる場と機会に恵まれ、
生きがいや幸福を実感している

目標数値
(2037年に
実現する目標)

15%

「見知らぬ他人であっても信頼する」に「非常に当てはまる」または「少し当てはまる」と回答した市民の割合（市民意識調査）〔参考〕5.5%(2025年)

幸せが生まれるみんなの取り組み

01 人権

- ▶ 部落差別（同和問題）をはじめとする人権問題の早期解消・解決に向けて、米原市人権尊重のまちづくり条例に基づく人権教育や啓発活動等を積極的に展開します。
- ▶ いじめの防止等に関する機関や団体が連携を図り、いじめの未然防止、早期の発見・解決のための対策を総合的かつ効果的に推進します。
- ▶ 平和な明日に向かって、戦争の悲惨な記憶や犠牲者の事実を風化させずに後世に引き継ぎ、「命の尊さ」や「互いに手をつなぎ合う大切さ」を学び続けます。

02 多様性・多文化

- ▶ すべての人が互いに人権を尊重し、性別にとらわれることなく、その個性と能力を十分発揮できる社会づくりを進めます。
- ▶ 家庭と仕事を両立でき、子育てしやすく、誰もが活躍できる環境の整備を進めます。
- ▶ 国際理解教育の推進や国際交流等を通じて、異文化の理解を深めます。また、市民、事業者、学校などが連携して多文化共生の取り組みが推進されるよう、外国籍市民との交流機会の充実等に取り組みます。

【福祉・防災】 基本目標4 福祉

幸せが生まれる2037年の米原の姿

地域のつながりの中で支え合いが広がり、
誰もが心豊かに安心して暮らしている

“自分ごと”
として備え、
みんなで支え合う

基本目標4の
目標数値
(2037年に
実現する
幸福実感指標)

「困ったときに相談できる人が身近にいる」 **45%**

「非常に当てはまる」または「少し当てはまる」と
回答した市民の割合（市民意識調査）〔参考〕39%(2025年)

- 共に生きる社会 -

誰も取り残さない支援体制ができ、
世代を超えてつながりあいながら、一人ひとりの意思を尊重し
支え合いながら暮らすことができる

目標数値
(2037年に
実現する目標)

1,200人

地域活動等の
福祉ボランティア登録数
〔参考〕1,141人(2025年)

- 困りごと・

ひきこもりの支援 -

生活上の困りごとやひきこもりの
支援が強化され、一人ひとりが
地域社会における役割と
確かなつながりを育み、
自己実現を果たしている

目標数値
(2037年に実現する目標)

45%

「町内の人困っていたら手助けをする」に「非常に
当てはまる」または「少し当てはまる」と回答した
市民の割合（市民意識調査）〔参考〕39.0%(2025年)



- 高齢者 -

介護が必要な状態になっても、
住み慣れた地域で自分らしい暮らしが
安心して続けられている

- 障がいのある人 -

障がいのある人もない人も、
地域で支え合いながら、一人ひとりが
自分らしく役割を持って
安心して暮らすことができる

目標数値
(2037年に
実現する目標)

30%

「介護・福祉サービスが受けやすい」に「非常に当て
はまる」または「少し当てはまる」と回答した
市民の割合（市民意識調査）〔参考〕23.2%(2025年)



目標数値
(2037年に実現する目標)

205人

ご近所元気にくらし隊員の
養成人数
〔参考〕190人(2025年)

幸せが生まれるみんなの取り組み

01 共に生きる社会

- ▶ 権利擁護センターにおける相談支援体制の充実を図り、権利擁護に関する啓発事業を推進します。
- ▶ 誰もが地域の一員として暮らせる福祉のまちづくり活動を推進するため、地域における福祉ボランティアや支え合いの福祉活動のすそ野を広げ、福祉人財の育成や活動しやすい環境づくりを支援します。

02 困りごと・ひきこもりの支援

- ▶ 福祉・就労・教育・保健などの専門機関が情報を共有し、複雑・多様化した課題に組織横断的に対応します。また、SNSの活用や訪問型の支援（アウトリーチ）を強化し、困りごとを抱えながら声を上げられずにいる人に働きかけます。
- ▶ 生活保護制度を適正に実施するとともに、受給者一人ひとりの状況や課題に応じて関係機関と連携し、経済的自立、日常生活自立および社会生活自立の実現に向けた支援を行います。

幸せが生まれるみんなの取り組み

03 高齢者

- ▶ 高齢になっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けられるよう、医療・介護・予防・住まい・生活支援などのサービスが切れ目なく一体的に提供される地域包括ケアシステムを推進します。
- ▶ 高齢者一人ひとりの状態に応じた生活支援と介護保険サービスの充実、質の向上を図るとともに、介護現場の負担軽減や働きやすい環境づくりを進め、将来にわたってサービスを支える介護人財の確保・育成に取り組みます。
- ▶ いつまでも元気でいきいきと活躍できるよう、働く喜びや生きがいづくりの場、身近な地域で集い交流できる機会を充実させるとともに、フレイル対策（加齢に伴い心身の活力が低下すること）のための健康づくりと介護予防を一体的に推進します。

04 障がいのある人

- ▶ 障がいのある人が住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるよう、日常生活を支える生活支援の充実を図るとともに、一人ひとりの状況に寄り添った相談支援体制の充実、自立に向けた支援の充実に取り組みます。
- ▶ 障がいのある人が地域の一員として自分らしく暮らし、活躍できる社会の実現を目指し、障がいへの理解促進を図りながら、就労や日中活動、文化・スポーツ活動をはじめ、あらゆる機会において障がいのある人の社会参加を促進します。

【福祉・防災】 基本目標5 健康・医療

幸せが生まれる2037年の米原の姿

健康な暮らしが生活に根付き、
誰もがいきいきとした毎日を重ねている

基本目標5の
目標数値
(2037年に
実現する
幸福実感指標)

「私は、身体的に健康な状態である」
「私は、精神的に健康な状態である」

45%

「非常に当てはまる」または「少し当てはまる」と回答した
市民の割合（市民意識調査）〔参考〕「私は、身体的に健康な状態
である」39.5%、「私は、精神的に健康な状態である」40.2%(2025 年)

- 健康づくり -

日々の生活において自発的に健康の維持・増進へと取り組み、
心身ともに健やかな状態を保ちながら、
彩りある自分らしい暮らしができている

目標数値
(2037年に
実現する目標)

60%

特定健診受診率
(法定報告)
〔参考〕46.8%(2024 年)

- 医療 -

医療や介護保険制度の適切な運用、制度の広域化やDX化により、
住み慣れた地域で生涯にわたって自分らしく暮らすことができている

目標数値
(2037年に
実現する目標)

25%

「医療機関が充実している」に「非常に当てはま
る」または「少し当てはまる」と回答した
市民の割合（市民意識調査）〔参考〕20.5%(2025 年)

幸せが生まれるみんなの取り組み

01 健康づくり

- ▶ 心身の健康に関する正しい知識を伝えるため、情報発信や個別指導
により一人ひとりの健康意識を高め、生活習慣の改善を促します。
- ▶ 乳幼児健診を通じ、成長に応じた食と生活リズムの大切さを伝える
健康教育を行います。
- ▶ アプリ等を用いた主体的に楽しみながらできる健康づくりを進め、
市民の健康意識を地域全体で支え合うネットワークへと発展
させます。

02 医療

- ▶ 限られた医療資源を有効活用し、市内外の医療機関や医療・介護・
福祉分野と連携して、疾病・重症化予防から在宅療養までを切れ目
なく支える一次医療提供体制の構築を目指します。また、高齢化を
踏まえ、治療にとどまらず、市民が住み慣れた地域で暮らし続けら
れる医療の実現を目指します。
- ▶ 子育て世代や障がいのある人、経済的に弱い立場にある人が安心して
自分らしい暮らしができるよう、福祉医療費の円滑な助成等に向
け県等関係機関と調整を図るとともに、市民サービスの維持・向上を
目指し、自動償還や現物給付に向けた取り組み等を推進します。
- ▶ 県内市町や国・広域連合との連携のもと、持続可能で安定した医療
保険制度を運営するとともに、介護予防・日常生活支援総合事業、
在宅医療と介護の連携、認知症施策を推進して介護保険制度を適
正に運営し、市民が安心して必要な医療・介護を受けられる体制を
守ります。

【福祉・防災】 基本目標6 防災・安全

幸せが生まれる2037年の米原の姿

一人ひとりの備えと地域の助け合いによって、
命と暮らしが守られている

基本目標6の
目標数値
(2037年に
実現する
幸福実感指標)

「米原市は、防災対策がしっかりしている」 **30%**

「非常に当てはまる」または「少し当てはまる」と
回答した市民の割合（市民意識調査）〔参考〕20.4%(2025年)

- 防災 -

情報の見える化や伝達体制の強化によって、
防災意識が向上し、みんなで備え、
みんなで守る「支え合いの防災体制」が
構築されている

- 消防 -

いろいろな人や地域の支え合い
のもと、消防団の体制と設備が
充実し、災害に強く安心して
暮らせるようになっている

目標数値
(2037年に
実現する目標)

80%

「災害時の情報伝達体制」に「満足」、「やや満足」
と回答した市民の割合（市民意識調査）
〔参考〕57.3%(2025年)

- 交通安全 -

市民一人ひとりが交通安全を
「自分ごと」として意識し、
交通事故のない安心できるまちになっている

- 防犯 -

地域のつながりを力に、誰もが「安心して
暮らせる」と実感できるようになっている

目標数値
(2037年に実現する目標)

30%

「防犯対策が整っており、治安がよい」に
「非常に当てはまる」、「少し当てはまる」と
回答した市民の割合（市民意識調査）
〔参考〕19.2%(2025年)

幸せが生まれるみんなの取り組み

01 防災

- ▶ 市民の生命、身体および財産を災害から守るため、市民、事業所および行政の役割分担と連携による防災対策を推進します。
- ▶ 情報の見える化と伝達体制の強化を図るとともに、地域防災リーダーの育成と自主防災組織の活性化を進めます。

02 消防

- ▶ 消防団組織の強化を図るため、団員の確保に努めるとともに、消防団員の活動備品等の充実と消防団設備の更新や適切な維持管理を行います。

03 交通安全

- ▶ 交通安全協会等が実施する街頭啓発・交通安全教室等の活動に参加・協力するとともに、団体の活動を支援します。

04 防犯

- ▶ 安全安心なまちづくりを進めるため、市内の防犯環境を整備します。また、市民の防犯意識を高めるため、効果的に各種媒体を活用し、多様化する犯罪への啓発を継続的に実施します。

【自然・環境】 基本目標7 自然・環境

幸せが生まれる2037年の米原の姿

山の豊かさや水の清らかさが守り育てられ、
自然を大切にする暮らしが広がっている

豊かな自然の
バランスを
ととのえる

基本目標7の
目標数値
(2037年に
実現する
幸福実感指標)

「米原市は、身近に自然を感じることができる」 **75%**

「非常に当てはまる」または「少し当てはまる」と
回答した市民の割合（市民意識調査）〔参考〕70.6%(2025年)

- 山とみどり再生 -

伊吹山固有の生態系を守るため、
植生回復や有害鳥獣対策が展開され、
かつてのみずみずしい環境の復元と
持続可能な保全を
確かなものとしている

- 自然環境 -

豊かな恵みをもたらす自然環境が
適切に保全され、暮らしと調和し、
かけがえのない財産として
継承されている

目標数値
(2037年に
実現する目標)

70%

伊吹山の植被率
(8合目から山頂付近)
〔参考〕25%(2025年)

- 生活環境・リサイクル -

市民一人ひとりが環境に配慮した行動の実践により、
ごみの減量と資源循環が進み、
自然にやさしいまちとなっている

目標数値
(2037年に実現する目標)

683g

1人1日ごみ排出量
〔参考〕715g(2025年)

幸せが生まれるみんなの取り組み

01 山とみどり再生・自然環境

- ▶ 限りある資源の有効活用・循環、環境負荷の少ない経済活動や生活スタイルの確立、良好な環境の保全などにより、生物の多様性の確保および自然環境の保護を促進します。
- ▶ 関係機関、関係団体等との連携により、植生回復・保全対策、有害鳥獣捕獲などを実施し、伊吹山や霊仙山等の豊かな自然環境の復元、保全に取り組みます。

02 生活環境・リサイクル

- ▶ 毎日の暮らしや仕事の中で、環境にかかる負担をできるだけ小さくする工夫を積み重ねるとともに、伊吹山から琵琶湖に広がる豊かな自然と調和しながら、良い環境を未来の世代に引き継いでいけるよう、環境を大切にしたい持続可能なまちづくりを進めます。
- ▶ 市民一人ひとりが、買い物や毎日の暮らしの中で、ごみを減らす工夫や資源ごみの正しい分別に取り組みます。また、地域や事業者と力を合わせ、使えるものは繰り返し大切に使い、ごみを減らす社会（循環型社会）を目指します。
- ▶ まだ食べられる食品が廃棄される「食品ロス」の削減に向けて、一人ひとりができることから取り組みます。また、ごみのポイ捨てや不法投棄をなくし、きれいで気持ちよく暮らせるまちを目指します。

【自然・環境】 基本目標8 エネルギーシフト

幸せが生まれる2037年の米原の姿

地球にやさしい取り組みが未来への活力を育み、
美しい環境が次世代に受け継がれている

基本目標8の
目標数値
(2037年に
実現する
幸福実感指標)

「米原市は、リサイクルや再生可能エネルギー活用等、
環境への取り組みが盛んである」

30%

「非常に当てはまる」または「少し当てはまる」と
回答した市民の割合（市民意識調査）〔参考〕22.5%(2025年)

- 再生可能エネルギー -

自然の恵みを生かした再生可能エネルギーの導入を促進し、地域一体となって
環境負荷を低減する持続可能な脱炭素社会づくりを果たしている

目標数値
(2037年に
実現する目標)

70MW

再エネ導入容量
〔参考〕25MW(2025年)

- 脱炭素未来投資 -

水素をはじめとする次世代エネルギーの活用が、
人々の健やかな日常と地域の経済成長を融和させ、
生命息づく自然のバランスを未来へと引き継いでいる

目標数値
(2037年に
実現する目標)

13.3 万トン

米原市域で排出された二酸化炭素排出量
(環境報告書)〔参考〕38.9万トン(2022年)

幸せが生まれるみんなの取り組み

01 再生可能エネルギー

- ▶ 環境に配慮した太陽光発電や小水力発電など地域資源を生かした再生可能エネルギーの導入を促進するとともに、国・県の支援制度の活用などを通じて、企業の脱炭素経営への転換を支援します。
- ▶ 省エネ設備・高効率機器の導入等を促進し、地域全体のエネルギー消費量の削減と温室効果ガス排出量の削減を図ります。

02 脱炭素未来投資

- ▶ 脱炭素社会の実現と地域経済の活性化に向けて、伊吹スマートインターチェンジ・エネルギーオアシス構想（再生可能エネルギー由来グリーン水素の製造・供給拠点の誘致等）の実現に取り組みます。また、関係機関との連携のもとで水素エネルギーの利活用を推進します。
- ▶ 再生可能エネルギーの地産地消、公共施設等のゼロカーボン化、営農型太陽光発電の設置、小水力等の地域資源活用を通して、脱炭素社会を構築します。
- ▶ ゼロカーボンの自分ごと化、伊吹山等の自然を学ぶ機会づくり、事業者による環境への取り組みの見える化等、市民・事業者・教育機関等とともに脱炭素行動と環境学習を行います。

【産業・経済】 基本目標9 産業

幸せが生まれる2037年の米原の姿

資源や知恵を生かした新たな挑戦により、
未来を生み出すなりわいが芽吹いている

基本目標9の
目標数値
(2037年に
実現する
幸福実感指標)

「米原市には、
新たなことに挑戦・成長するための機会がある」 **20%**

「非常に当てはまる」または「少し当てはまる」と
回答した市民の割合（市民意識調査）〔参考〕6.9%(2025年)

- ものづくり・商業 -

地域に根付いた産業が活性化し、
新たな魅力ある産業が
つくられている

- 起業・複業 -

起業・複業に取り組む人が増え、
関係人口・交流人口の拡大により、
地域が活性化している

目標数値
(2037年に
実現する目標)

20人

市の支援制度を
活用した新規創業者数
〔参考〕7人(2025年)

- 農林水産業 -

農業・畜産業・水産業・林業で
生産性や収益性の向上が図られ、
適切な維持管理が行われている

目標数値
(2037年に実現する目標)

85%

農地の集約率
〔参考〕72%(2025年)

幸せが生まれるみんなの取り組み

01 ものづくり・商業

▶ ものづくりの素地を生かし、企業の立地や新技術・先端設備の導入等の取り組みを支援し、地域経済の活性化を図ります。

02 起業・複業

▶ 地域資源の活用や地域課題の解決につながる起業・創業を推進するとともに、副業・複業人財による新たな挑戦を応援することで、次の世代へ続くなりわいを育てます。

03 農林水産業

▶ 高齢化が進む農業の担い手を確保するため、後継者の育成を図るとともに、関係機関との連携により新たな就農者を支援します。

▶ GI認定を受けた伊吹そばを筆頭に、地域の特色ある作物の推進を図ります。

▶ 森林所有者をはじめ、関係機関と連携を図り、境界明確化や間伐等の森林整備を進めます。

▶ 漁場環境の保全、漁業関連施設の維持管理、担い手確保や後継者育成などにより、水産業を振興します。

【産業・経済】 基本目標 10 **経済**

人と人、地域と地域の交流によって
まちの新しいにぎわいや価値が高まっている

「米原市は、やりたい仕事を見つけやすい」 **15%**

「非常に当てはまる」または「少し当てはまる」と
回答した市民の割合（市民意識調査）〔参考〕4%（2025年）

- 觀光 -

豊かな自然や歴史文化の魅力が未来につながり、訪れる人と暮らす人の交流により活力が生まれ、感動と誇りに満ちている。

- 働< -

さまざまな人が活躍できる
働き方や働く場があり、
地域の商工業の活力が高まっている

- 選ばれるまち -

市の魅力が認知され、「選ばれるまち」
としての評価が高まっている

- 空家対策 -

たくさんの人の挑戦により、
空家からにぎわいとなりわいが
生まれている

目標数値
(2037年に実現する目標)

日帰り **92** 億円、宿泊 **64** 億円

観光消費額

〔参考〕日帰り 78 億円、宿泊 52 億円(2025 年)

目標数値
(2037年に実現する目標)

930 人 (累計)

移住促進関連施策を
活用した移住者数
〔参考〕 333 人(2025 年)

01 觀光

▶ 交通の要衝としての強みを生かし、市域を越えた広域的な連携のもとで観光誘客を図ります。また、地域資源の持つ力を最大限に引き出すことで、市民と来訪者の活発な交流を実現し、郷土への愛着を育み、未来へ続く持続可能な観光を推進します。

02 働<

▶ 魅力ある雇用環境をつくり、地域の商工業を支える人財を確保し、創業希望者への事業の引き継ぎなど、事業承継を支援します。

03 選ばれるまち

▶ 米原市の自然や暮らしの魅力を、届けたい相手に応じた方法で市内外に発信し、まちを知り、好きになってもらう機会を広げます。

▶ 訪れる人や地域に関心を寄せる人が、それぞれの興味や得意なことに応じて参加できる余地を地域の中に用意し、継続的なつながりへと育てます。あわせて総合相談窓口や専門の相談員を置き、移住の検討から定住までを切れ目なく支え、つながりが次の移住者を呼び込む流れをつくります。

04 空家对策

▶ 空家等の発生予防、管理および活用を含めた総合的な空家対策に取り組めます。特に、にぎわいやなりわいづくりにつながるよう、移住者や事業者などによる空家活用の促進に取り組めます。

【暮らしの土台】 基本目標 11 暮らしの拠点

幸せが生まれる2037年の米原の姿

駅や地域の拠点に人が集い、語らい、
つながり、交流の輪が大きく育っている

まちと暮らしを
ともに支え合い、
安心を灯し続ける

基本目標 11 の
目標数値
(2037年に
実現する
幸福実感指標)

「米原市には、心地のいい居場所がある」 **40%**

「非常に当てはまる」または「少し当てはまる」と
回答した市民の割合（市民意識調査）〔参考〕25.3%(2025 年)

- 米原駅周辺まちづくり -

滋賀県唯一の新幹線駅を生かし、
米原駅周辺が広域拠点として、
人・モノ・情報が集まるにぎわいの中心になっている

目標数値
(2037年に
実現する目標)

15 件（累計）

都市拠点での新規開業件数

- 身近な拠点 -

地域の魅力を生かした拠点が形成され、誰もが暮らしやすく、
次世代が暮らし続けられるまちづくりが行われている

目標数値
(2037年に
実現する目標)

88%

「これからの定住意向」で「これからも住みたい」、
「当分の間は住みたい」と回答した
市民の割合（市民意識調査）〔参考〕82.9%(2025 年)

幸せが生まれるみんなの取り組み

01 米原駅周辺まちづくり

- ▶ 滋賀県唯一の新幹線駅を生かし、東口の本庁舎を核に行政・防災・都市機能が集約された広域拠点として、企業立地や土地利用の高度化が進み、災害に強く誰もが使いやすいまちの中心を形成します。
- ▶ 単に乗り換える駅から、にぎわいと交流が日常的に生まれる玄関口へ転換するため、「過ごす・楽しむ・働く」機能を備えた滞在交流空間を官民連携でつくります。
- ▶ エリア全体の都市機能強化や土地利用の高度化を促進し、二次交通（路線バス・乗合タクシーまいちゃん号）との接続を強化することで、にぎわいや利便性を各生活圏（日常生活で行き来するいつもの場所）へ波及させます。

02 身近な拠点

- ▶ 地域に合った計画的な宅地供給を促進し、多世代が安心して住み続けられる居住環境の形成を図るとともに、民間活力による生活に便利な施設や産業・交流基盤の立地を支援・誘導することで、にぎわいと活力があふれる拠点環境をつくります。
- ▶ 市民・事業者・行政等がそれぞれの強みと限られた資源を活用し、地域の実情に応じた暮らしの拠点をつくります。

【暮らしの土台】 基本目標 12

持続可能な都市基盤

幸せが生まれる2037年の米原の姿

大切に維持管理された都市の土台が、
安全安心な暮らしを支えている

基本目標 12 の
目標数値
(2037年に
実現する
幸福実感指標)

「米原市には、まちなか、公園、川沿い等で
心地よく歩ける場所がある」

45%

「非常に当てはまる」または「少し当てはまる」と
回答した市民の割合（市民意識調査）〔参考〕33.4%(2025 年)

- 都市計画 -

都市や産業の拠点が戦略的に整えられるとともに、
豊かな自然や歴史文化が守り育てられ、安全・快適な住環境と
美しい風景の中で、心身の健康と生活の質が高まっている

目標数値
(2037年に
実現する目標)

18_{ha}

市街化区域の増加面積

- 交通 -

拠点と地域を結ぶ
公共交通がつながり、
持続可能で快適な
移動手段を選択できている

- 道路 -

快適・気軽に移動ができる
交通ネットワークが整備され、
安心・安全な暮らしが
できている

- 水 -

上下水道施設の適切な維持管理と
更新が進み、安全な水を
安心して使い、汚水も適切に
処理される暮らしが続いている

目標数値
(2037年に
実現する目標)

40%

「公共交通機関で、好きな時に好きなところに移動
ができる」に「非常に当てはまる」、「少し当てはま
る」と回答した市民の割合（市民意識調査）
〔参考〕25.8%(2025 年)

幸せが生まれるみんなの取り組み

01 都市計画

- ▶ 計画的な市街化区域の拡大による拠点エリアの戦略的な整備推進、地区計画制度を活用した市街化調整区域における適正な土地利用の誘導など、都市計画を着実に推進します。
- ▶ 公園や既存施設の戦略的な活用と整備により、緑のネットワークと交流の拠点を形成し、市民が健やかに過ごせる環境をつくりま

02 交通

- ▶ 乗合タクシーまいちゃん号の最適化とサービスの改善を進めるとともに、最新技術を活用した移動手段の利便性の向上を検討しま
- ▶ 鉄道の利用促進を行うとともに、鉄道と二次交通（路線バスと乗合タクシー）との連携強化を行います。

03 道路

- ▶ 円滑で安全安心な道路環境の整備を進めるとともに、地域の活性化につながる快適な道路インフラを構築します。

04 水

- ▶ 上下水道施設の老朽管更新など計画的な施設整備や維持管理を行い、引き続き水の安定供給を進め、快適な暮らしと良好な水環境をつくりま

【協働・地域経営】 基本目標 13 協働

幸せが生まれる2037年の米原の姿

市民、地域、事業者、行政が手と手を取り合い、新しいまちづくりを動かしている

基本目標 13 の
目標数値
(2037年に
実現する
幸福実感指標)

「米原市は、地域活動（自治会・地域行事・防災活動等）への市民参加が盛んである」 **35%**

「非常に当てはまる」または「少し当てはまる」と回答した市民の割合（市民意識調査）〔参考〕20.6%(2025年)

- つながり -

いろいろな人や団体が対等な立場でつながり、信頼を深め合うことで、地域の持続可能性が高まっている

- 地域コミュニティ -

自治会の事務負担が軽減されつつ、世代を超えた担い手が育ち、地域のことを自分ごととして支え合う、思いやりのある地域自治が営まれている

- 新たな支え合いの仕組み -

地域課題を自分ごとととらえる人の輪が広がり、誰もが自分らしく暮らし、困ったときは助け合えるようになっている

目標数値

(2037年に実現する目標)

45%

「同じ町内に住む人を信頼している」に「非常に当てはまる」、「少し当てはまる」と回答した市民の割合（市民意識調査）〔参考〕36.9%(2025年)

目標数値

(2037年に実現する目標)

40%

「地域への愛着」に「非常に当てはまる」、「少し当てはまる」と回答した市民の割合（市民意識調査）〔参考〕33.9%(2025年)

幸せが生まれるみんなの取り組み

01 つながり

- ▶ 市民・事業者・行政等が日常的に顔を合わせ、対等な立場で対話できる場・機会・関係性を継続的に育みます。
- ▶ 米原に関わる人々の知恵や経験、地域の資源を見える化し、市民・事業者の主体的な行動が地域の力として循環するための仕組みを整えます。

02 地域コミュニティ

- ▶ 自治会を「行事の負担感が先に目立つ活動」の場から、住民自らが地域の楽しみや課題解決のために動く「自分たちのための組織」へと進化させていきます。
- ▶ 自治会の事務負担を軽減し、主体的な活動を促進するため、行政からの依頼事項を削減していきます。

03 新たな支え合いの仕組み

- ▶ 人口減少社会において、地域住民や多様な主体（NPO、ボランティア、民間企業など）の参画による新たな支え合いの仕組みづくりを進め、制度の狭間にある課題や複雑化した生活課題にも対応できる地域共生社会を実現します。

【協働・地域経営】 基本目標 14 地域経営

幸せが生まれる2037年の米原の姿

未来を見据えたまちの経営が進み、
新たな価値を生み続けている

まちの明日を
つむぐため、
手と手をつなぐ

基本目標 14 の
目標数値
(2037年に
実現する
幸福実感指標)

「米原市の行政は、
地域のことを真剣に考えていると思う」

35%

「非常に当てはまる」または「少し当てはまる」と
回答した市民の割合（市民意識調査）〔参考〕20.8%(2025 年)

- 財政 -

限られた資源を未来への投資に
生かす、安定的で健全な
財政運営が行われている

- 行政 -

行政サービスの質を確保し、
時代に合ったデジタル技術等を活用して
市の業務の効率化を図っている

- 公共施設マネジメント -

公共施設が最適化・複合化され、
限られた施設が有効に活用されて、
必要な公共サービスが持続的に提供されている

- 報せる・聴く -

市民目線の広報で、市民が深く結びつき、
いつでも誰でも最適な方法で
必要な情報が得られる、
便利なまちになっている

目標数値

(2037年に実現する目標)

5%

実質公債費比率※（3か年平均）

〔参考〕4.1%(2024 年度決算)

※実質公債費比率は、借入金（地方債）の返済
額（公債費）の大きさを、その地方公共団体
の財政規模に対する割合で表したものです。

- 連携 -

対等な立場での連携と協働で、
公共サービスが充実し、
地域に新たな価値が生まれ続けている

目標数値

(2037年に実現する目標)

20 件（累計）

連携先の広がり：包括連携協定の
締結件数

〔参考〕11 件(2025 年)

幸せが生まれるみんなの取り組み

01 財政

▶ 市債の発行については、地方交付税措置のあるものを優先して発行することで、柔軟な財政運営に努めます。

02 行政

▶ 市民に寄り添う質の高い行政サービスを提供するとともに、デジタル技術の活用やいろいろな人や団体との連携により、持続可能でしなやかな行政経営を推進します。

▶ デジタル技術を活用して行政手続のオンライン化を推進し、誰もが便利で質の高い行政サービスを利用できる環境を整えます。

03 連携

▶ 民間事業者や大学、地域団体、行政等が立場の違いを越えて対等に
出会い、互いの強み・課題・資源を共有できる場と関係性を継続的に
育むことで、近隣市町における公共私の連携のもと、それぞれの
地域の実情に即した地域生活圏の形成を図ります。

04 公共施設マネジメント

▶ 市民ニーズを把握しつつ、公共施設の複合化や統合、用途変更、廃止などにより施設総量を削減し、次世代に適正な財産の引き継ぎを行います。

05 報せる・聴く

▶ 暮らしにつながる行政情報や地域情報を多様な手段で発信するとともに、対話の場や市民意識調査などを通じて市民の声を的確に把握し、情報が伝わりやすく、市政に参画しやすい広報・広聴に取り組みます。